

長崎県文化財調査報告書 第108集

長崎県埋蔵文化財調査集報 XV

1993

長崎県教育委員会

発刊にあたって

このたび、長崎県埋蔵文化財集報XVIを刊行することになりました。

集報には長崎県教育委員会が実施した緊急調査の中で、比較的小規模な調査の結果を収録しております。

今回は、雲仙・普賢岳災害関係の畠中遺跡（島原市）、上松高野遺跡（有明町）、西鬼塚石棺（有家町）の調査結果及び平成3年度埋蔵文化財発掘調査一覧を収録しました。

開発事業に先立っては、遺跡の保護・保存について各関係者と協議を重ね、その結果、計画変更ができない部分の発掘調査を実施いたしました。

調査にあたっては、できるだけ詳細な観察と記録を行い、その成果については本書に述べるとおりであります。

この報告書が、文化財に対する理解と愛護を深め、地域の歴史をひもとく一助となり、多くの皆様にご利用いただくことを願うものです。

平成5年3月31日

長崎県教育委員会教育長 清浦義廣

総 目 次

I	烟中遺跡	1
II	上松高野遺跡	29
III	西鬼塚石棺	47
IV	平成3年度埋蔵文化財発掘調査一覧	63

凡 例

1. 本書は、長崎県教育委員会が行った下記遺跡の発掘調査報告書である。なお併せて平成3年度埋蔵文化財発掘調査一覧も収録した。

烟 中 遺 跡 繩文時代晚期を中心とした遺物包含地。
上層には中世の遺物も含む。

上松高野遺跡 繩文時代早期を中心とした遺物包含地。

西 鬼 塚 石 棺 繩文時代終末から弥生時代にかけての墓地群。

2. 本書の編集は、各遺跡はそれぞれの担当者が行い、平成3年度埋蔵文化財発掘調査一覧は川口洋平が、総編集を安楽勉が担当した。

I 烟 中 遺 跡

— 烟原市所在 —



例　　言

1. 本報告書は、平成3年度に実施した長崎県島原市下宮町2417番地他に所在する烟中遺跡の緊急発掘調査報告書である。
2. 調査は長崎県教育庁文化課が主体となった。
3. 調査関係者は次のとおりである。

事業主体 長崎県住宅課

調査主体 長崎県教育庁文化課

調査担当者 埋蔵文化財班係長 安 楽 勉

調査協力 島原市教育委員会

4. 本報告の遺物・土層の実測及び写真撮影・執筆は安楽が担当した。
5. 出土遺物及び図面・写真類は、現在文化課で保管している。

本文目次

I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の地理的・歴史的環境	2
III 調査	
1. 調査概要	6
2. 土層	7
IV 遺構・遺物	
1. 縄文早期の土器	9
2. 縄文晩期の土器	10
3. 歴史時代の土器	17
V まとめ	18

挿図目次

第1図 島原半島縄文晩期遺跡分布図	2
第2図 島原市遺跡分布図	3
第3図 遺跡位置図 (1/5000)	6
第4図 調査区配置図 (1/400)	7
第5図 土層実測図 (1/40)	8
第6図 縄文早期土器実測図 (1/2)	9
第7図 縄文晩期土器実測図(1) (〃)	11
第8図 " (2) (〃)	12
第9図 " (3) (〃)	13
第10図 " (4) (〃)	14
第11図 土師器実測図 (〃)	15
第12図 歴史時代の土器実測図 (〃)	16

図版目次

図版. 1	普賢岳遠望及び調査区遠景	21
図版. 2	調査区近景及び土層	22
図版. 3	調査風景及び遺物出土状況	23
図版. 4	出土土器(1)	24
図版. 5	" (2)	25
図版. 6	" (3)	26
図版. 7	" (4)	27

I 調査に至る経緯

平成2年11月17日、これまで雲峰と崇められてきた雲仙・普賢岳（1359.3m）は、突然白い煙を噴き出し長いねむりからさめた。実に寛政4年（1792）の島原大変以来の出来事である。

その後の火山活動は活発で、溶岩は日増しにせり出し、平成3年6月3日の大火碎流となつて多くの人命と家屋・田畠などに被害を出した。しかし火碎流や土石流の発生はとどまるところを知らず、被害はさらに大きくなつた。水無川流域では警戒区域や避難勧告区域が設定され立ち入りが禁止された。避難を余儀なくされた住民は、深江町と島原市のかなりの数に及んだ。

県では、これらの人々の生活の場を確保するべく、各地に災害公営住宅の建設が計画された。本遺跡もこのような状況で建設が決定され、平成3年7月県住宅課より工事概要の説明を受けた。これによると、敷地面積は3,400m²の借地に鉄骨プレハブ2階建6棟、駐車場、浄化槽などで、期間は一応5年間に限定されている。

しかし、この地区には広い範囲にわたり烟中遺跡が周知されており、調査の必要が生じてきたため、詳細な検討を行つた。建物部分についてはプレハブ建てということもあり、構造上地表下60cm以上には影響を及ぼさないことが確認され、調査区から除外した。調査対象としたのは、3m掘り下げる計画である浄化槽部分（5m×15m）と駐車場入口の部分である。

工事着工は8月上旬で9月末日が完工予定である。時間的に制約を受けることでもあり、早急に対応することになり、平成3年8月5日～8月8日の4日間の日程で調査を実施した。

なおこの調査の後にも、上石流の被害を受け工場移転に伴つての調査と、県道拡幅工事に係わる調査が実施されている。報告書刊行は平成6年の予定である。

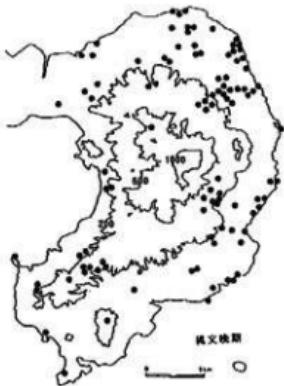
現在、普賢岳の火山活動は沈静化に向つているとはいゝ、未だに火碎流や上石流災害などが続いており避難生活を続けている人達も多い。一刻も早く終息することを願うものである。

II 遺跡の地理的・歴史的環境

島原半島は三方を海に囲まれ、北西部は幅5km足らずの愛野地峡で肥前半島と繋っている。中央には普賢岳を主峰とする雲仙山塊があり、放射状にゆるく伸びた山麓や平坦地は、まとまりのある生活の舞台を提供している。半島の基盤を成すのは、南部に見られる更新世初期の口之津層群で、丘陵地形を成している。

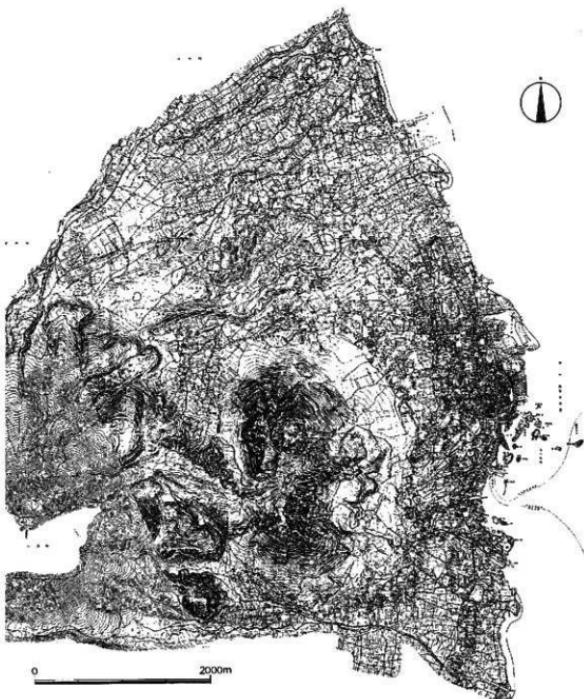
遺跡の所在する島原市は、半島東部に位置し、西部を国見岳、妙見岳、野岳によって小浜町・国見町と接し、北部を金洗川で有明町、南部を水無川によって深江町と分けられている。周辺の地形は、雲仙基底火山碎屑岩の火山疊、砂（第四紀更新世）が覆い、南側には1792年（寛政4）の雲仙火山活動に伴う溶岩流を形成している。この時眉山が崩壊し、土石流となり有明海に流れこんだため、大津波が発生、対岸の熊本側も含めて14,500人以上の犠牲者を出している。これが世に言う「島原大変」である。この崩落により現在の島原外港を中心とする一帯は完全に埋没してしまっている。そのため江戸時代以前の遺跡は見あたらず、遺跡地図にもその状況は空白地帯となって表われている。

市内にはあちこちで湧水点を見ることができるが、遺跡もこの地の利を得てか64箇所が周知されている。旧石器時代の遺跡は国見町から有明町にかけて、百花台遺跡などで良好な資料が得られているが、市域では疊石原遺跡でマイクロブレイドが表揚されているだけで、今後の発見に期待したい。縄文時代になると、早期の遺跡は11箇所を数える。標高100~250mの高所に位置しているなかで、肥賀太郎遺跡が調査され、押型文土器と塞ノ神式土器が出土している。また長貫遺跡からも同様の遺物が出土している。前期・中期の遺跡はごく限られるが、三会下町海中遺跡からは、轟B式土器や並木式・阿高式・舟の元式土器などが確認されている。後期になると半島全体でも遺跡は増加傾向を見せ、国見町役遺跡などはその代表といえるが、三会下町海中遺跡などからわずかに出土しているのみである。晩期になると、半島全体では105箇所を数え増加する。（第2図）疊石原遺跡は標高230~300m程の緩やかな地形に立地する15haに及ぶ大規模な遺跡であるが、本遺跡もこの下方東側に位置し、先頃調査された稗田原遺跡を含め遺跡の密集地にあたる。また最近雲仙・普賢岳災害関係に伴い調査された水無川左岸に位置する中木場遺跡も良好な遺跡である。さらに隣接する深江町山の寺遺跡や、北有馬町原山支石墓群も重要な遺跡である。



第1図 島原半島縄文晩期遺跡分布図

島原市内遺跡地名表



第2図、島原市遺跡分布図

弥生時代になると遺跡は急減し、海岸近くの低地に立地する傾向が見られる。代表的な遺跡に景華園遺跡¹¹があげられる。江戸期に銅矛2本が発見され、昭和の初め頃にも板石囲いの甕棺を発見し、残された大石の下から鉄劍・銅劍・玉類が出土している。現在も3m四方の板石が残り支石墓であると言われている。

古墳時代については、長塚、小塚、鬼の家などがあるが、遺構を確認できるものはなく実態は不明である。

中世以降も安徳城跡や寺中城などが見られるが、考古学的な解明は進んでおらず今後に問題を残している。

- 註1 長崎県『土地分類基本調査』長崎県南部地域総合開発地域 1976
- 2 長崎県教育委員会『長崎県埋蔵文化財地図』長崎県文化財調査報告書第87集 1987
- 3 副島和明・伴耕一朗『百合台広域公園建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』長崎県文化財調査報告書第92集 長崎県教育委員会 1988
- 4 宮崎貴太氏教示
- 5 宮崎貴夫・川道寛『長崎県埋蔵文化財調査集報 XIII』「肥賀太郎遺跡」長崎県文化財調査報告書第97集 1990
- 6 古田正隆『島原市の海中干潟遺跡(図録)』百人委員会埋蔵文化財報告第2集 1974
- 7 町田利幸他『礫石原遺跡』県道愛野～島原線改良工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書 長崎県文化財調査報告書第100集 1991 この他にも古田正隆、百人委員会刊の『礫石原遺跡』1977などがある。
- 8 1992年1月25日～30日雲仙・菅原岳災害関係の第3道砂地造成に伴い調査。
- 9 古田正隆『山の寺梶木遺跡』長崎県南高来郡深江町山の寺梶木遺跡の報告 百人委員会文化財報告第1集 1973
- 10 久原巻二 「島原半島の遺跡立地」第6回繩文研究会資料 1988
- 11 古田正隆『三会中野景華園遺跡』(島原市三会の弥生文化) 1963

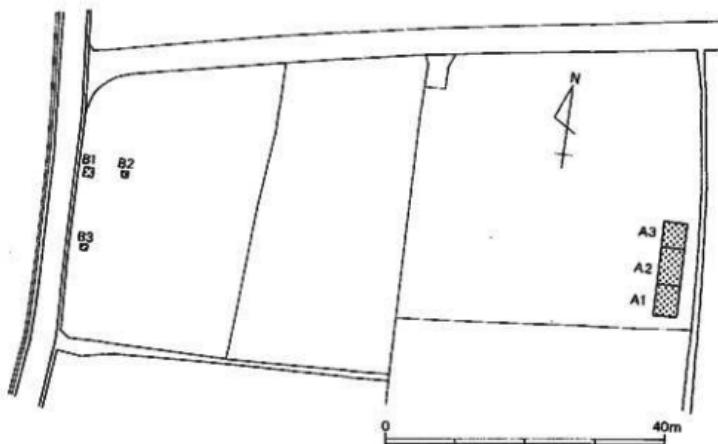
III 調 査

1 調査概要 (第3・4図)

烟中遺跡は東西500m、南北570mの約285,000m²に及ぶ広い面積が捉えられているが、今回の調査の目的は、雲仙・普賢岳災害関係の県営仮設住宅建設に伴うものであり、事前の協議で、建物は構造上地表下60cm以上には影響を及ぼさないことが確認されている。調査区は工事で深く掘削される浄化槽部分に3m×15mのトレーンチを入れ、5m区画でA 1～3とした。また駐車場入口の部分には、1m×1mの sondageを3箇所設定しB 1～3とした。



第3図. 遺跡位置図 (1/5000) 太線枠内が遺跡、アミ部分が調査箇所



第4図 調査区配置図 (1/400)

2 土層 (第5図)

A区の層序

第1・2層……耕作上層である。表面には噴煙と火碎流によってもたらされた火山灰がうすく積もる。煙には以前ゴボウを栽培しており、60~70cmと厚く、この層は重機を使用して除去した。

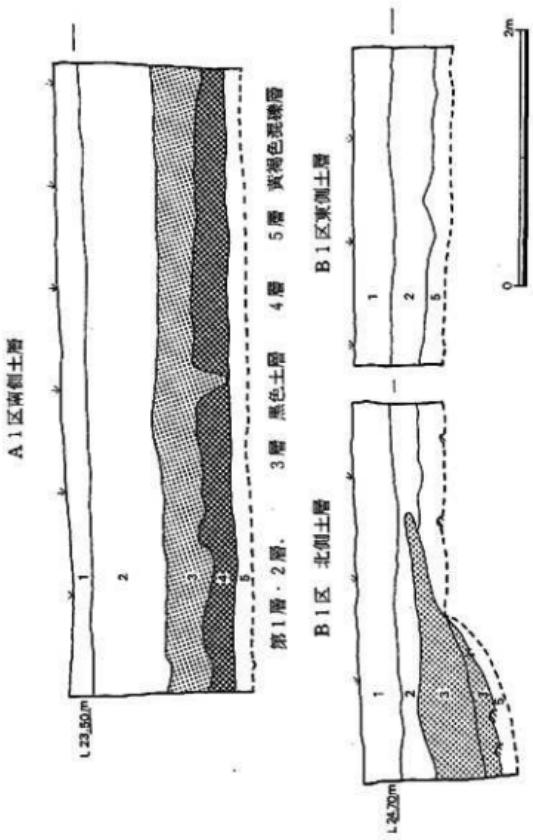
第3層……柔らかくて踏まっておらず、湿った感じの黒色土層。土師器、須恵質土器、中国輸入陶磁器などを含む歴史時代の層である。厚さ約30cm。

第4層……さらりとした暗褐色土層。縄文晩期単純層で土器や黒曜石片を含む。厚さ約20cm。

第5層……黄褐色混礫層。さらりとした砂粒や拳大の礫を含む。上面には縄文早期土器を若干含むが、下部には見られない。この他に、レンズ状に川砂利に似類した層が5層に入り込んでいるが、遺物は含まれていない。

B区の層序

駐車場進入口附近に設定したB区の層序は、第1・2層の下部に黄褐色混礫層である第5層が見られ、A区に存する第1層は見られない。しかし、西側にかけて第5層が大きく溝状に掘り込まれ、第3層の黒色土層が堆積し、土師器などが含まれる。この溝状の遺構はB3区でも観察される。



第5圖. 土層実測図 (1/40)

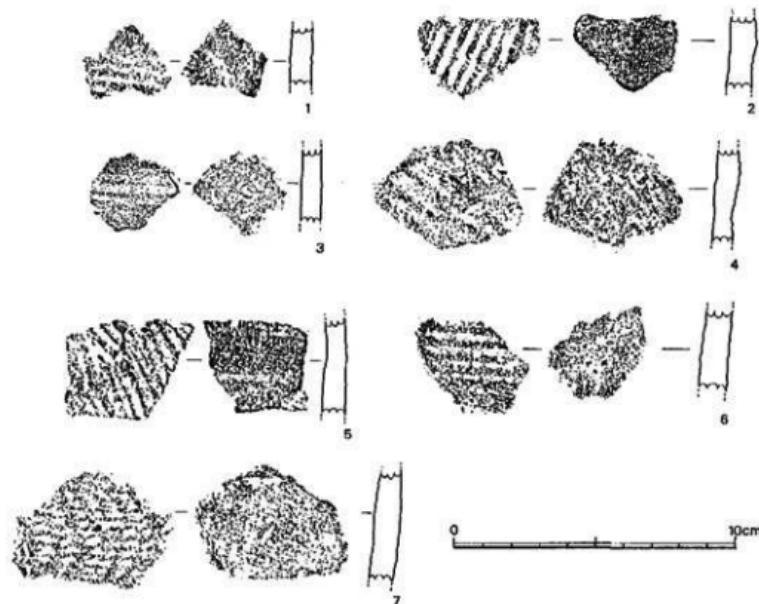
IV 遺構・遺物

これまでの畠中遺跡の表面観察では、上師器や須恵器、弥生土器の表面採集が報告されている。今回の調査では、遺構の存在は今一つ明確さを欠くが、3層から4層にかけて掘り込まれた平安時代末から中世頃にかけてと考えられる柱穴5個と、縄文晩期の柱穴1個が検出され、建物遺構の存在を窺わせた。B区では、中世以降と考えられる溝状の遺構が西北に延びるのが確認された。

遺物は、全体的に小破片の土器が多く良好な資料は少ないが、2つの時期に特定できる。石器については、製品の出土はなかったが、若干の黒曜石剥片の出土が見られた。以下、土器について観察する。

1. 縄文早期の土器 (第6図1~7)

わずか7点であるが第5層の黄褐色砂混疊層出土である。砂質が強いためか全体的にローリングを受けている。文様は粗い条痕文を基調としているが、2などは沈線に近い。7はやや底



第6図. 縄文早期土器実測図 (1/2)

部に近くぼってりとしており、文様は波状の沈線を呈している。胎土は白い砂粒や角閃石を含み堅く焼き締まった感じである。円筒土器の系譜と考えられる。

この土器群については、本県でもこれまでわずかながら吾妻町弘法原遺跡、諫早市鷹野遺跡や西輪久道遺跡からも出土していたが、資料が少なく検討する段階になかった。しかし、ほぼ時を同じくして調査が行われていた近の距離にあたる有明町一野遺跡のはば同じ層から、良好な資料の出土が認められている。図上復原可能な大型の破片もあり、併せて押型文土器や撲糸文土器も出土していることから縄文早期から前期に位置づけられている。

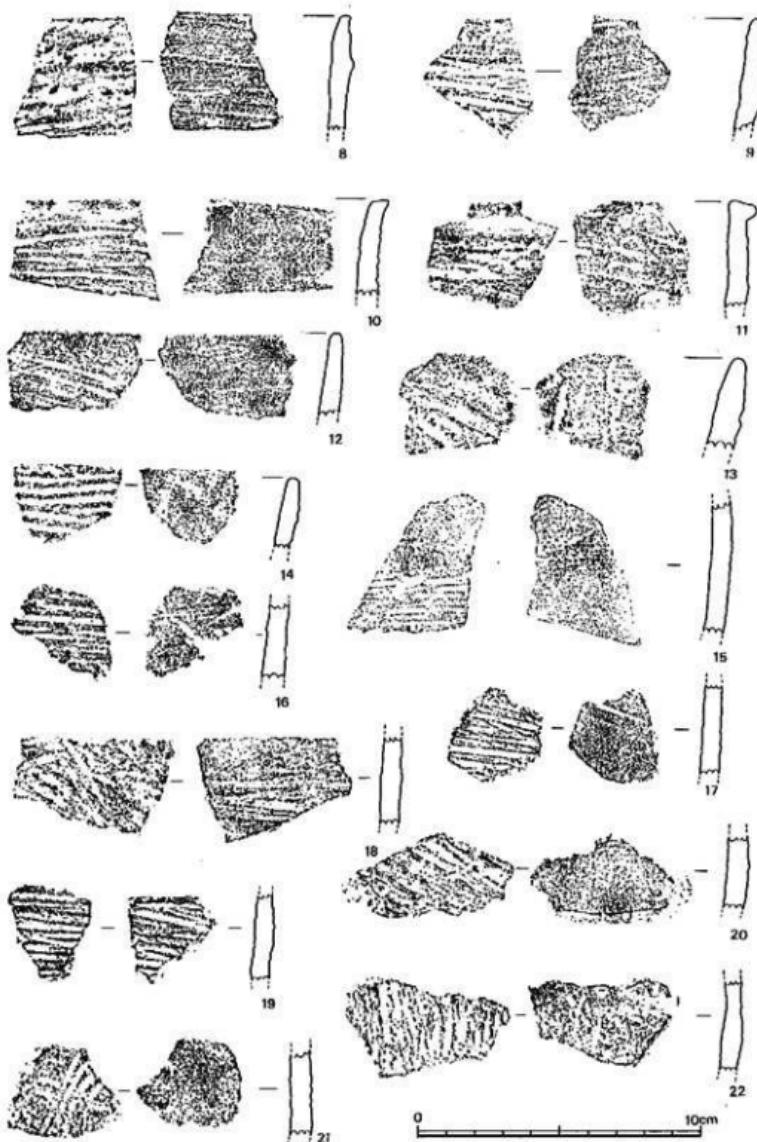
これでこの土器の系譜をたどることが可能になった訳であるが、熊本県下、及び鹿児島県下における各遺跡との関連については一野遺跡の報告書に詳述されているので、ここでは割愛する。

2. 縄文晚期の土器（第7図8～第10図60）

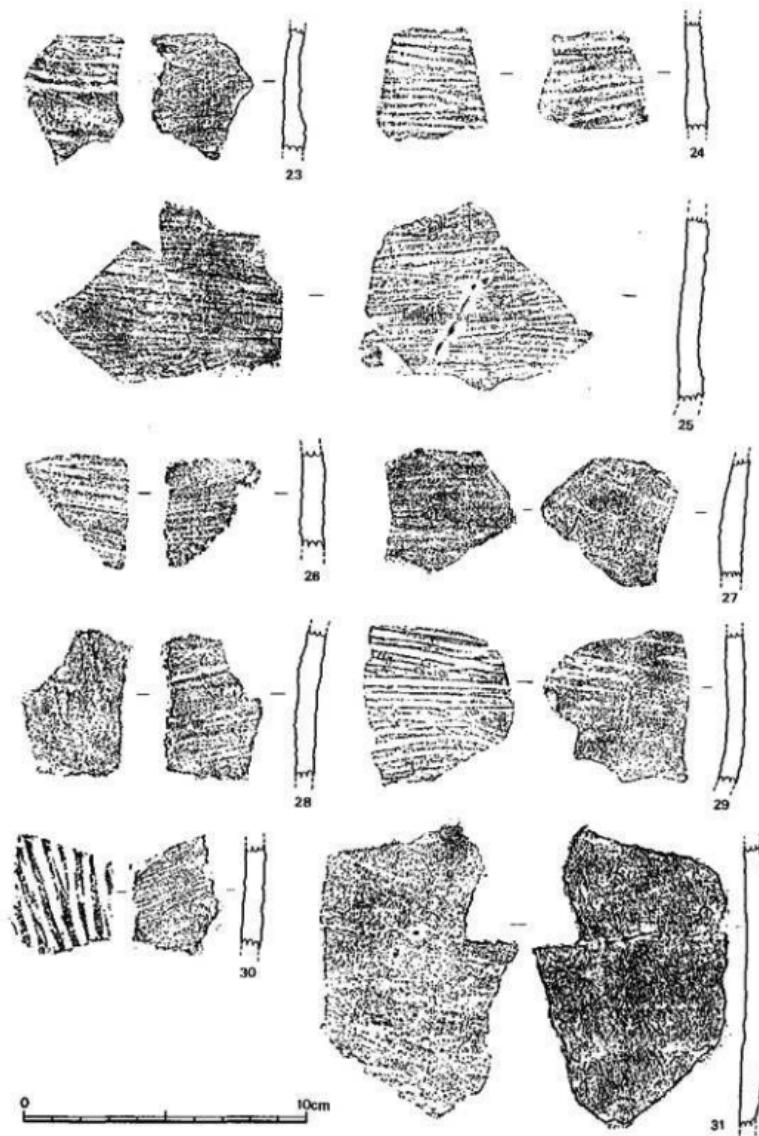
ほとんどの土器は4層からであり、中には3層に一部含まれるものもある。晩期としては4層が主体なので一括して取り扱った。

8～14は粗製土器の口縁部である。内外とも条痕文を基調としている。8・9は内湾する口縁部で内面は黒色、条痕文の上からヨコナデしている。9は内がヨコナデで、ともに胎土、焼成は良好である。10は口縁部は平坦におさめられ、やや外湾している。胴部にかけてやや張り出しが弱い「く」の字を呈すると思われる。内はヘラ状工具によりヨコナデされている。11は内外とも粗い条痕調整で内湾している。口縁部は平坦であるが、外に断面三角形状に突出している。12から14の口縁部の形状はほぼ同一であるが、14はやや小ぶりで、外の文様は条痕というより沈線に近いものである。

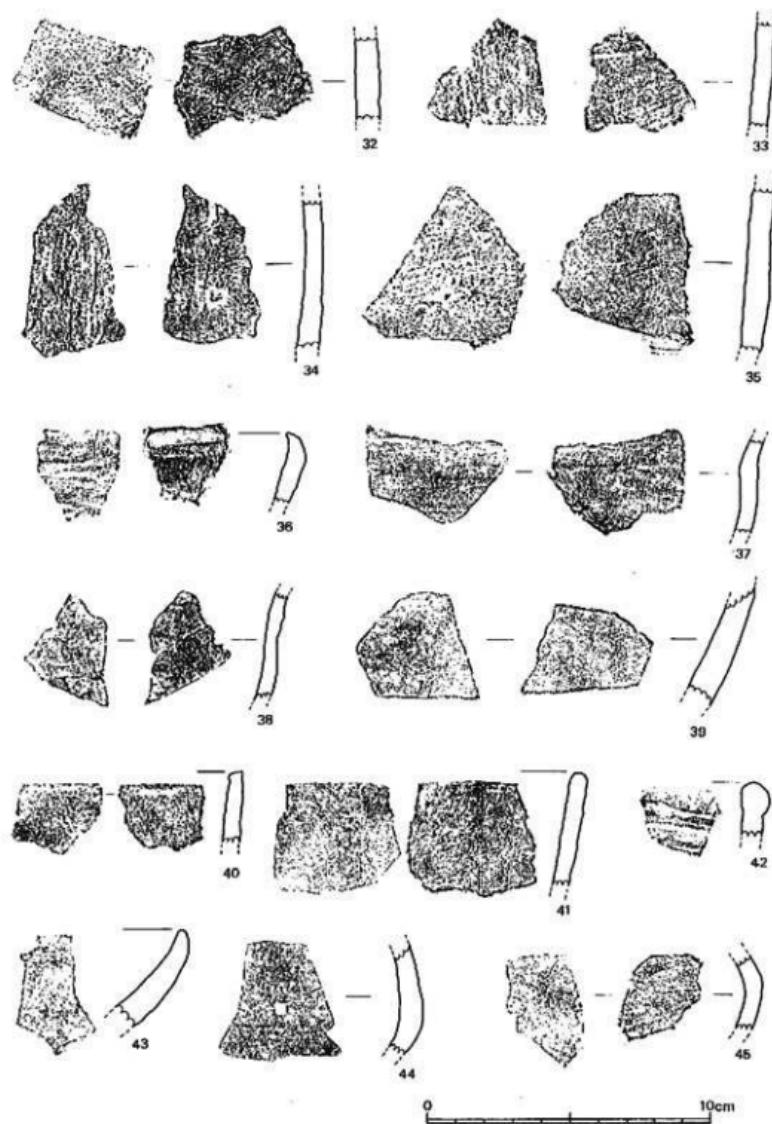
15から35は粗製深鉢の胴部である。胎土・焼成とも良好で色調もほぼ褐色または暗褐色で統一される。15は外に浅い沈線様の条痕が下部に残り、上部はナデ消されている。また内はヘラ状のものでヨコナデされている。18も15と同じ手法であるが、最初に斜めに施文した上に横方向から施している。19は内外とも明瞭な条痕文が残る。20～22は条痕文は粗い施文で胎土もしまりがない。23～28は頸部から胴部にかけてゆるく外反し、張り出す土器である。23は外に条痕とナデによる整形が行われ一部ススが付着しているが内は簡単に磨かれている。25は比較的大きな破片である。内外ともやや粗い条痕で整形されている。外は胴部の張り出し部に弱い段が付き褐色。内は灰暗褐色を呈する。29～35は内湾する胴部である。29は外に丁寧な条痕が付されている。内の条痕はヘラ状のものでナデ消されているが、凹んでいる部分に条痕がわずかに残る。胎土は緻密で焼成も良好である。30はやや焼成が甘い土器であるが、外には条痕というより沈線に近い文様が綴に施され、内面は黒色でヨコナデされている。31は内外とも条痕施文のあとナデ消されているが、内にわずかに条痕が残る。32は表面がやや粗れているが半精製土器に近く、内は磨かれている。33～35は条痕調整のあとヘラ状のものでヨコナデされている。



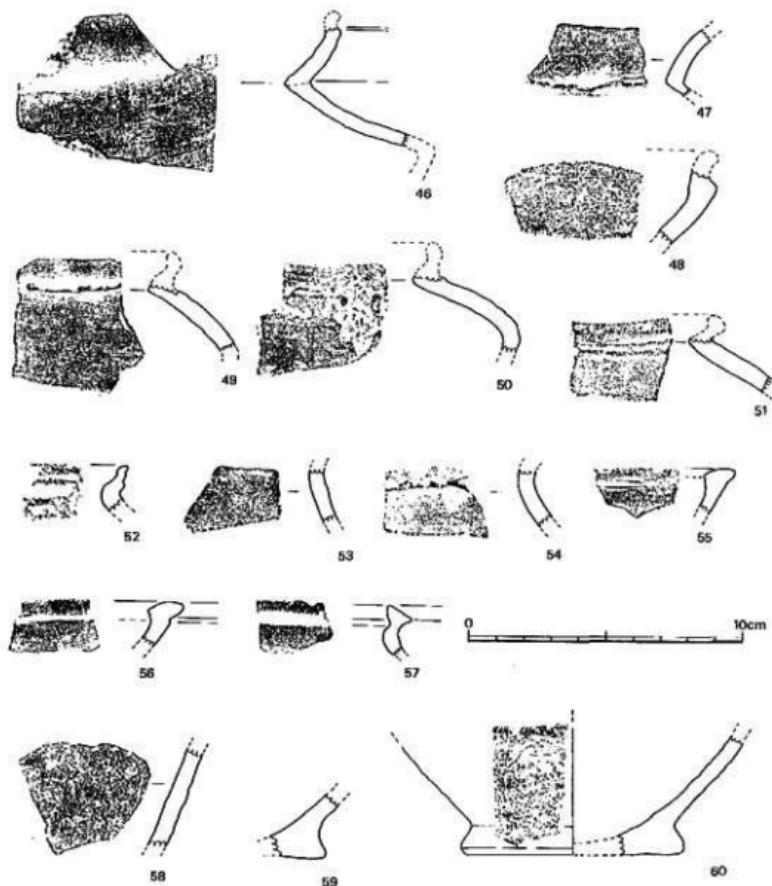
第7図. 縄文晩期土器実測図(1) (1/2)



第8図. 縄文晩期土器実測図(2) (1/2)



第9図 縄文晩期土器実測図(3)(1/2)



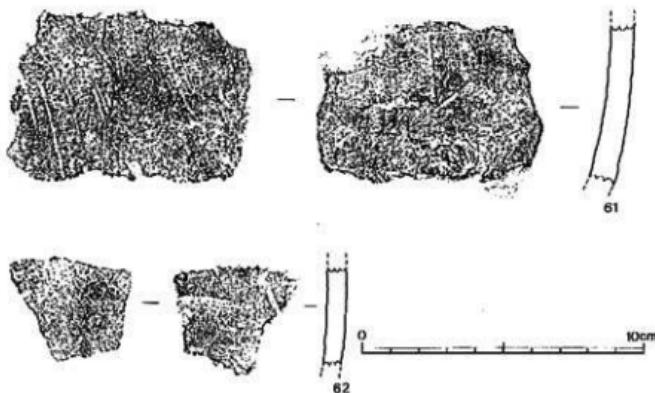
第10図. 縄文晩期土器実測図(4) (1/2)

36は半精製で小形の土器ながら胎上、焼成とも良好でしっかりしている。頸部はややしまり、胴部はわずかに張り出す。内は丁寧に研磨されている。形状は小形の鉢になると思われる。39は精製土器で深鉢の底に近い部分である。両面とも暗灰色で研磨されている。40は形状不明の半精製土器である。口縁部は平坦で、内側にわずかに弱い沈線が残る。41は精製磨研土器である。中鉢になると思われ、口縁部は隅丸におさめられている。胎土、焼成も良好。42は半

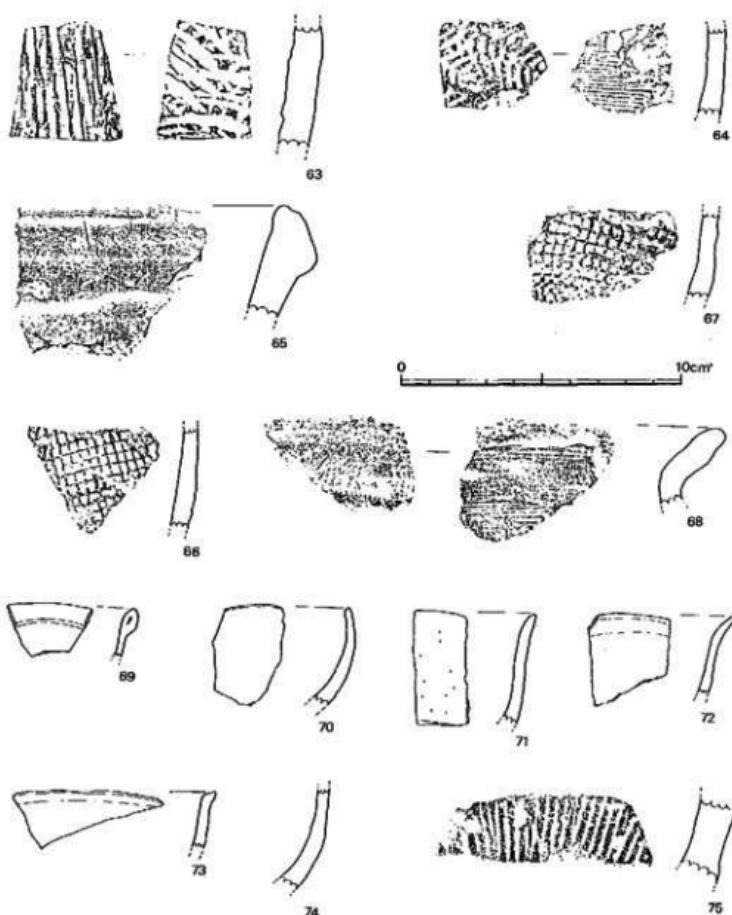
精製の小形浅鉢になる土器である。内外ともに器表は研磨されている。口縁部は丸くおさめられ肩口から内湾している。胎土、焼成もよく色調は赤褐色に近いしっかりした土器である。43は小破片で形状は不明であるが、口縁部は玉縁状におさめられ、外には一条の弱い沈線で区切りをもち、中鉢になると思われる。44は口縁部を欠くが、胴部が丸くふくらむ浅鉢を呈すると思われる。内は黒色で外は赤褐色で研磨されている。45は44と色は若干違うものの形状は同じと考えられる。

46～58は精製研磨された浅鉢の一群である。46は口唇部をわずかに欠くものの黒色磨研土器の特徴をよく残している。口縁部は内湾するが頸部はよくしまり、内に鋭く突き出している。胴部にかけてはやや外反しており、この状態から考えると、胴部も大きく屈曲するものと思われる。47も46と器形が同じであるが、口縁部が外反している点を異にする。いずれも古タイプに属するものである。48は半精製土器で、口縁部を欠くが、短く外反し肩が張る浅鉢である。50～51は口縁部は接合部で欠くが、頸部から胴部にかけて丸く大きく張り出す黒川式系の浅鉢である。52は突き出した口縁部外に2条の沈線がめぐり、内にも1条施され段がつく、前者に相当する口縁部である。53、54は半精製土器の頸部である。やや外反しながら直線的に伸びるが、おそらく壺形になると思われる。55、56は外に1条の沈線がめぐる。58は内はよく磨かれているが、外は若干粗れている浅鉢の底部に近い部分である。

59、60は粗製深鉢の底部である。底は平坦で、胴部への立ち上がり部分はよくしまっている。内外とも条痕調整のあとナデ消されている。胎土、焼成とも良好である。



第11図 土器実測図 (1/2)



第12図. 歴史時代の土器実測図 (1/2)

3. 歴史時代の土器 (第12図63~75)

歴史時代の土器は表面採集および1・2層からの出土である。少數であり時期的な特徴は捉えられないが、今後に期待するものである。

土師器 (第11図61・62)

61は小破片で、胎土には白い砂粒や角閃石を含み焼成は良好。内には横方向にヘラ削り痕が残り褐色。外は暗灰色でススが一部付着している。62は胎土に石英粒や茶、白の砂粒を含みやや粗い。内外ともヘラ削りであるが、外には擦痕が付く。色調は黄褐色。

須恵器 (第12図63・64)

2点とも表素である。63の外は平行条線叩き、内には平行同心円文叩き調整を施した甕脚部で厚味をもつ。64は外に条線の叩きを不規則に付け、内には刷毛目が丁寧に施されている。器壁はうすく、形状は不明。

瓦質土器 (第12図65~67)

65は束縛窯系と思われる摺鉢である。口縁部は口唇の部分が押さえられ弱い段がつき、外の張り出し部もわずかに凹み、頸部の境には貼り付け痕を残す。胎土には粗い石英粒が混じる。

66・67は格子目叩きの甕である。67は須恵質で堅い。棒万丈窯系であろうか。

68は素焼きで頸部のしまった口縁部である。形状不明だが内は横に刷毛目、外は磨耗しているものの刷毛目がわずかに残る。

輸入陶磁器 (第12図69~74)

輸入陶磁器は20点程みられるが、ほとんどが耕作土層からである。

69は白磁の玉縁口縁で1点出土、小破片ながら小さい玉縁で釉は白色で薄くかけられ、胎土も白に近い色である。森田分類では枕1類にあたる。72・73も白磁碗にあたる。70・71・74は青磁碗片である。釉は青味を帯びた緑色で文様は見られない。口唇部は口禿げで茶色である。74には鏡蓮弁文が残り龍泉窯系と考えられる。

その他の土器 (第12図75)

75は素焼きの摺鉢片である。内には多くの斜沈線があり、胎土は精選され、白雲母の散粒子を含む。時期的には新しいと考えられる。

註1. 高野晋司・莆田和彦『一野遺跡』有明町文化財調査報告書第11集 1992

2. 棒万丈窯の甕破片と思われるものが、北有馬町今福遺跡からも出土している。

V まとめ

今回の緊急調査は、大きく広がる遺跡の中で、南側の点の地域にすぎない。しかし周辺には礎石原遺跡や稗田原遺跡などが濃密に分布し、時間的に若干の差違はあると、密接につながっていたと考えられる。小破片が多く確定的なことは言えないが、黒色磨研土器から見るかぎり晩期中葉の初め頃まで遡るのでないだろうか。このことは、今地点より西方200mの所で災害による工場移転に伴って調査された区域でも裏付けられている。この地区では晩期カメ棺墓群や多くの遺物が得られている。

また中世では溝や道路状遺構、屋敷跡、製鉄跡なども検出されており、今回出土の歴史時代の遺物とB区検出の遺構の関連も予想されることである。

いずれにしても、この調査結果が畠中遺跡の解明を一層前進させると期待される。

図 版

図版. 1



噴煙を上げる普賢岳

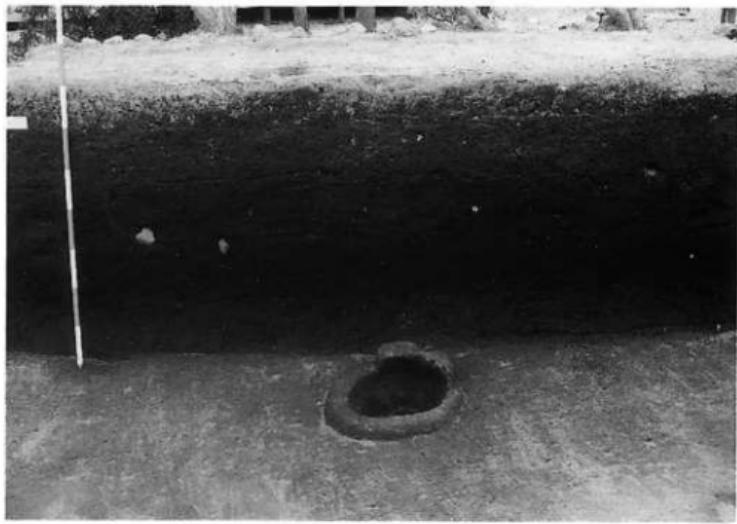


調査区遠景（西から）

図版. 2



調査区近景



土 層

圖版. 3

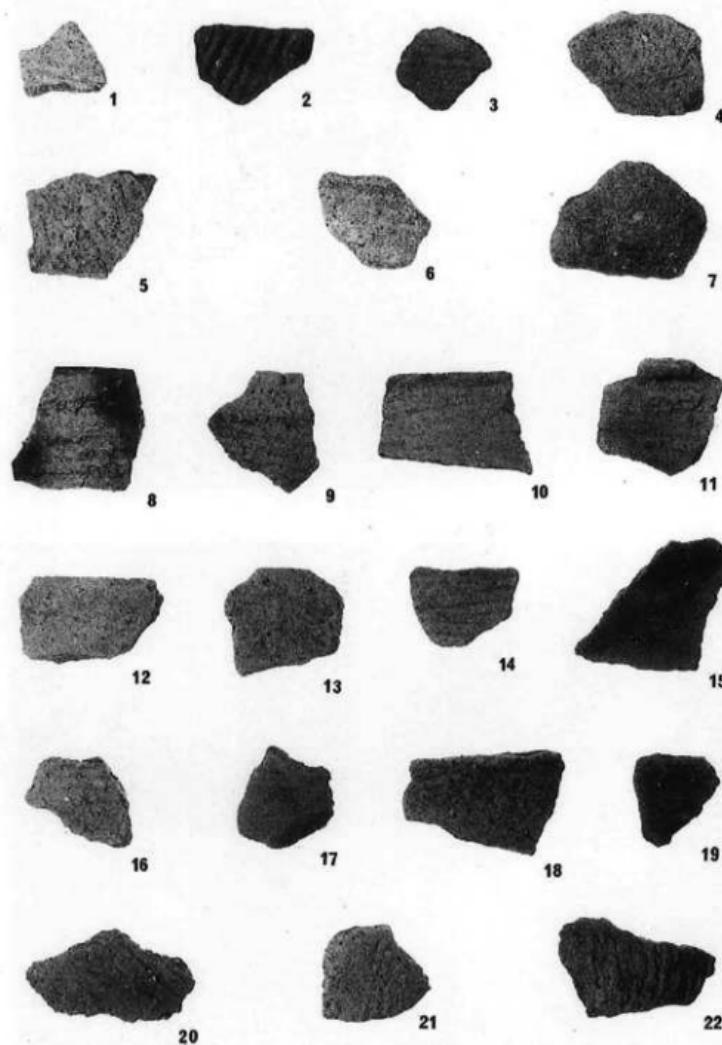


調査風景



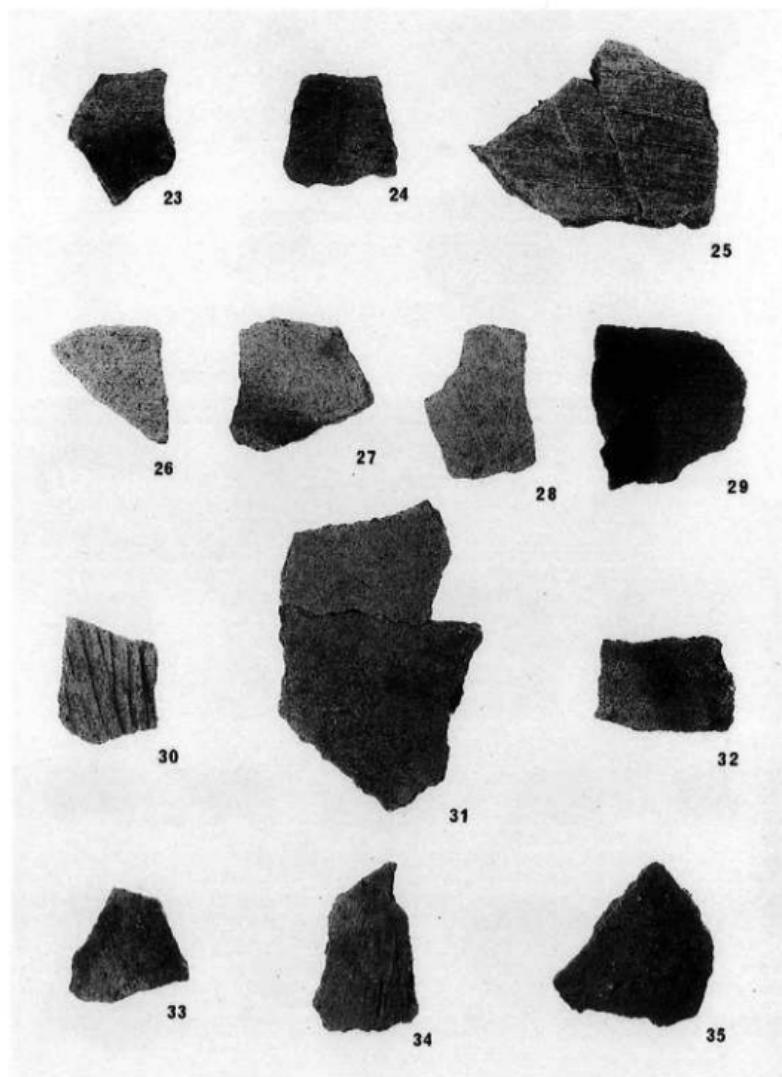
遺物出土状況

図版. 4



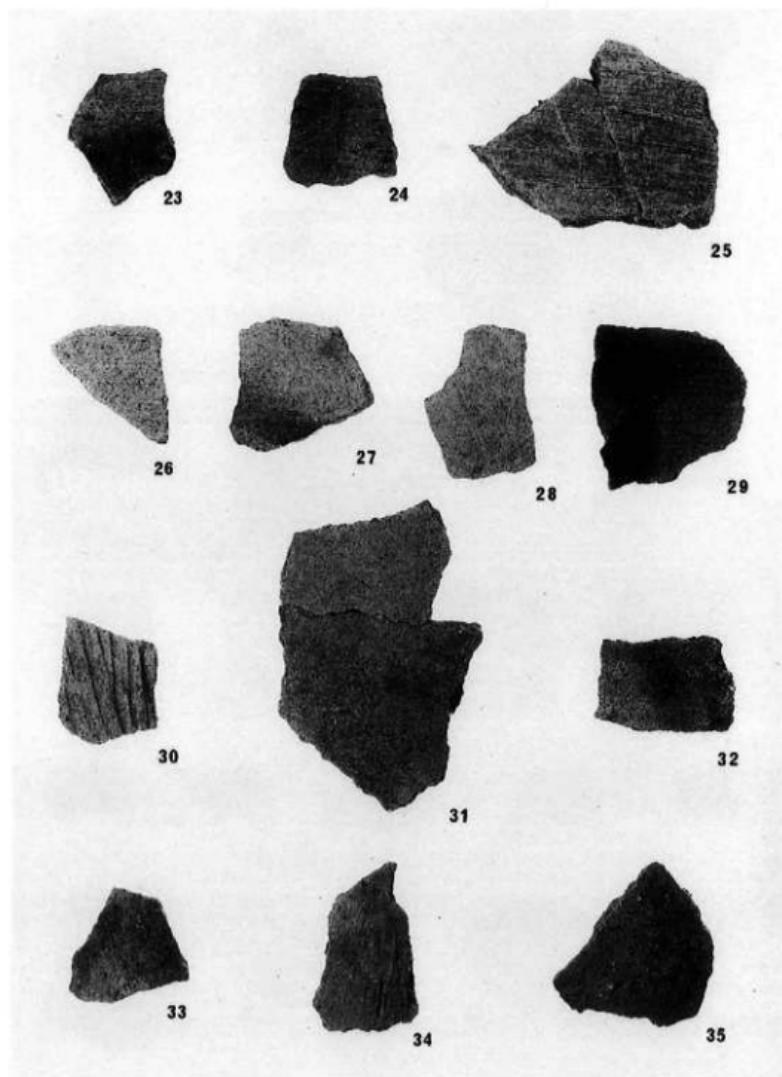
出土土器 (1) 番号は実測図に一致する

圖版. 5



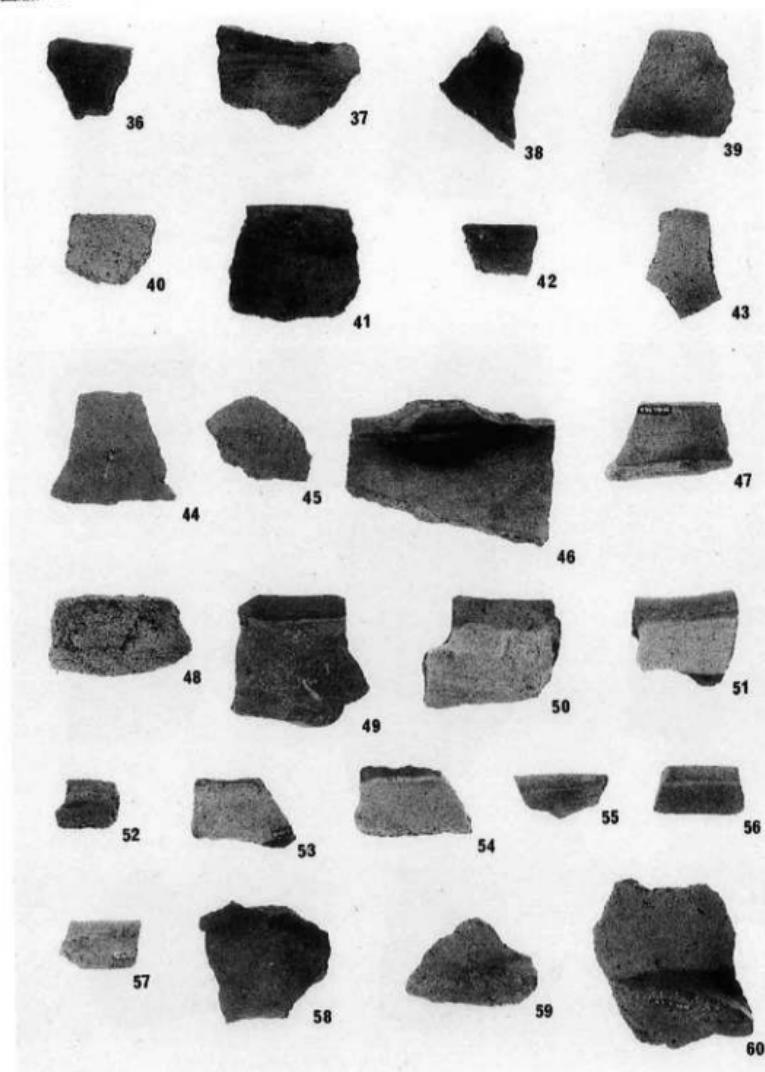
出土土器 (2)

圖版. 5



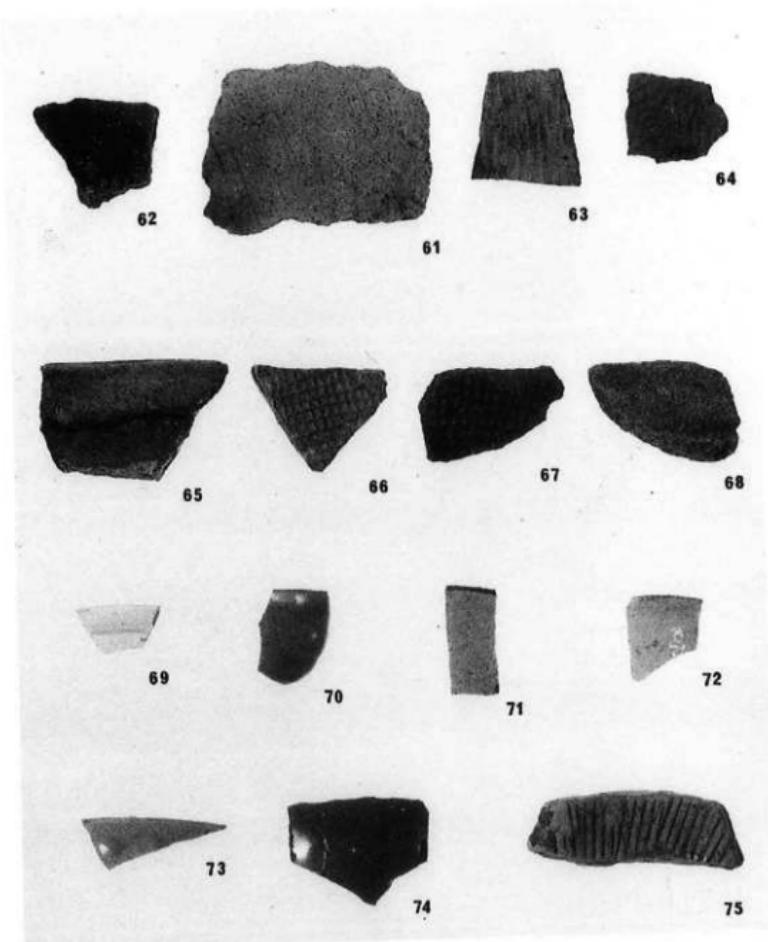
出土土器 (2)

圖版 6



出土土器 (3)

圖版. 7



出土土器 (4)

II 上松高野遺跡

—南高来郡有明町所在の遺跡—

例　　言

1. 本報告は、平成4年度に実施した、長崎県南高木郡有明町上松高野2471番地所在遺跡の緊急発掘調査結果である。
2. 調査は有明町教育委員会が主体となり、長崎県教育庁文化課が調査を担当した。
3. 調査は、文化課主任文化財保護主事藤田和裕が担当した。
4. 調査および遺物等の写真撮影、本報告の執筆・編集は調査担当者による。

本文目次

I 調査に至る経緯	33
II 遺跡の立地と環境	34
III 調査	36
1 調査の概要	36
2 土層	37
3 遺物	38
IV まとめ	40

挿図目次

第1図 有明町・上松高野遺跡位置図	33
第2図 遺跡周辺の地形と遺跡 (1/25,000)	34
第3図 遺跡周辺の地形 (1/2,500)	36
第4図 調査区域図	37
第5図 土層図	38
第6図 遺物実測図	39

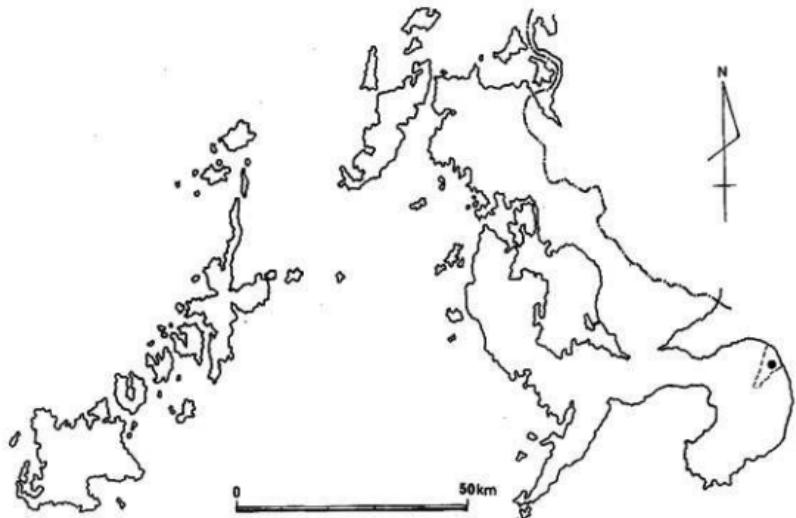
図版目次

図版1 遺跡近景と調査風景	43
図版2 土層の状況	44
図版3 出土遺物	45

I 調査に至る経緯

本県南高来郡有明町の上松高野遺跡の所在する畠地に、礼拝堂の建設が計画された。しかしその場所は昭和58年に県文化課で実施した、遺跡周知事業に伴う分布調査で土器片などが散布していたため、上松高野遺跡として登録されている部分にふくまれていることから、建築主が発掘調査等、遺跡の取り扱いについて有明町教育委員会に相談された。町教育委員会ではその取り扱いと今後の対応について、県文化課に連絡された。平成4年8月のことである。県文化課では、明らかに周知の遺跡であり、遺跡地図にも明記されていることから、工事を行う場合は文化財保護法第57条の2による届出の必要があることを伝えた。さらに工事に先立っては、発掘調査の必要を指導した。

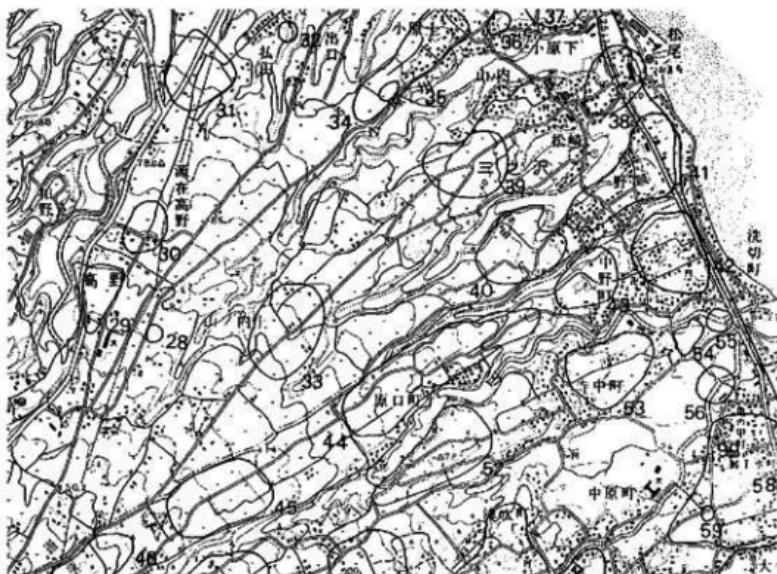
これを受けて、町教育委員会は建築主と取り扱いについての協議を行った。その結果、文化課で調査費用の積算を行い、その条件で工事の前に試掘調査を実施することで同意が成立した。これにより建築主は町教育委員会を通して57条の発掘届を提出され、調査主体としての有明町教育長からの文化財保護法第98条の2第1項の、発掘の通知が提出された。それと同時に、発掘調査にあたって実際に調査を担当する、県文化課の調査員の派遣申請も出された。調査の時期などについて調整の結果、同年9月に試掘調査が実施された。



第1図 有明町・上松高野遺跡位置図

II 遺跡の立地と環境

本遺跡は有明町の中部、雲仙岳から北東側に伸びる丘陵上に位置している。有明町は、現在でもしきりに噴煙を上げつつある普賢岳を中心とする、島原半島の北東部分に位置している。町での最高部になるのは、南側に位置する舞岳で頂上の標高は703mである。町域は、舞岳を頂点として扇形に広がり、先端部分は有明海に続いている。町は全体として緩やかな傾斜地と海岸部分の平地とからなっている。丘陵部分は山麓扇状地形で、標高50mから300m付近にかけて淡色黒ボク土壌に覆われ、畑作を中心とした農業が盛んで、多くは野菜類が栽培されている。これらの丘陵部分が湯江川や金洗川などの河川によって開析され、平地が形成され、主に水田として利用されている。これらのはかの小河川も丘陵部分を削り、小さな谷を作っている。これらの川沿いにも水田が連なっている。



第2図 遺跡周辺の地形と遺跡 (1/25,000)

29 上源在高野遺跡	30 下源在高野遺跡	31 上松高野遺跡
32 拂山横穴古墳	31 武ノ久保遺跡	34 小原上遺跡
35 国土神社裏横穴	36 小原下B地点遺跡	37 小原下遺跡
38 松尾遺跡	39 山ノ内遺跡	40 上一野遺跡
41 一野遺跡	42 景華園遺跡	43 上中野遺跡
44 原山B遺跡	45 原山A遺跡	46 下油細遺跡

『長崎県遺跡地図』長崎県教育委員会 1987年による

町の東側は島原市で、西側は国見町に接している。

なお、本遺跡は、江戸時代に銅劍2本、銅鉢2木が出土した島原市の景華園遺跡から西北西約2.5kmの場所である。

昭和58年に県教育庁文化課が実施した遺跡周知事業に伴う分布調査では、地表面に散布している土器片から弥生時代の遺跡として捉えられており、遺跡地図にはかなり広い範囲が示されている。今回の調査箇所はその南側にあたり、周辺は一帯が畑地として利用されている。調査地の標高は65.3mから66mほどあり、北側に緩く傾斜している。

遺跡から見晴らせば、有明海の14kmほどを挟んで対岸の熊本県が望まれる。また、北西方向には海の向こうに五家原岳などの多良山系の山々が見渡せる。

周辺の遺跡

町内の遺跡で、先土器時代のものは知られていないが、西側に接する国見町の標高200mを越す場所に位置する百花台遺跡がある。かなり広範な広がりがあり、出土している遺物も多い。縄文時代早期の遺跡として、押型文土器が出土している森岡遺跡、東空閑城跡遺跡、一野遺跡などがある。縄文時代前期や中期の遺跡の存在については、現在までのところは知られていない。後期から晩期の遺跡として、中田遺跡、大野原遺跡、小原下遺跡、礫石原遺跡など、明瞭な遺構を伴う遺跡も知られている。弥生時代の遺跡としては、一野遺跡、妙法塚遺跡、大野原遺跡などがある。一野遺跡、妙法塚遺跡では、壇棺などの埋葬施設が確認されている。古墳時代の遺跡としては、横穴式石室をもつ古墳として平山古墳⁽¹⁾のみが知られている。この古墳は、墳丘の測量の結果、直徑約15mの円墳と考えられ、墳丘の高さは現在3.5m程である。周濠はなく、葺石もないように認められる。石室は单室の横穴式石室で、主軸は北から西に14°振れ、南から少し東に向いて開口している。玄室は、奥壁の部分の幅2.2m、長さ約2.3mで平面的には正方形に近い。玄門に閉塞石をはめ込むための掘り込みが残り、この点が国見町に残る八反田古墳と共通している。被葬者か古墳の築造者の共通性も考えられている。古墳時代のものと思われる石棺は、妙法塚遺跡や一野遺跡で出土している。歴史時代になると、8世紀から9世紀頃にかけての生活址を伴う松尾遺跡⁽²⁾が調査されている。中世の城跡としては、大野浜城跡、東空閑城跡、大野城跡などが知られている。

註1 『礫石原遺跡』 島原市文化財調査報告書第4集 島原市教育委員会 1988年

2 『上一野・原口A遺跡』 有明町文化財調査報告書第8集 有明町教育委員会 1990年

3 『妙法塚遺跡』 長崎県文化財調査報告書第45集 長崎県教育委員会 1979年

4 『平成2年度長崎県埋蔵文化財発掘技術研修記録』 長崎県文化課 1991年

5 『松尾遺跡』 長崎県文化財調査報告書第45集 長崎県教育委員会 1979年

6 『有明町史』 上巻 有明町 1987年

III 調 査

1 調査の概要

調査は平成4年9月7日から行うこととし、7日の朝から有明町教育委員会に出向き、挨拶のあと現地に向かった。調査の対象となった建築予定地に、第4図の場所に $2\text{ m} \times 2\text{ m}$ の試掘場を9箇所設定した。現在建てられている倉庫と農道との間の、500 m^2 ほどの畑地の北側を1列、中央のものを2列、南側に3列として、それぞれ南東側から北西側にA・B・C列とした。現地は長く雨が降っておらず、畑地の表面は火山灰特有の微粒となっていて、風に火山灰が舞う状況であった。試掘場の設定後、C列から掘り下げを始めた。C列の1, 2, 3試掘場とB列の5箇所である。午後は試掘場の位置と周辺を $1/100$ で測量し、8日にはC列の2, 3試掘場が地山に達したが、その間造構・遺物包含層は認められなかった。各試掘場とも、現地表面から 0.8 m 程まで牛蒡などの作物を植え付けるために搅乱されていて、整った状況での土層は残されていなかった。C列の終了した班はB-3, A-2試掘場に移動して掘り下げにかかった。A-2試掘場の搅乱層から、黒曜石の拳大の原石が出土した。8日中にはC列の1, 2, 3試掘場とB列の1, 2試掘場の土層の写真撮影までを終了した。9日はA列の1, 2, 3と



第3図 遺跡周辺の地形 ($1/2,500$)

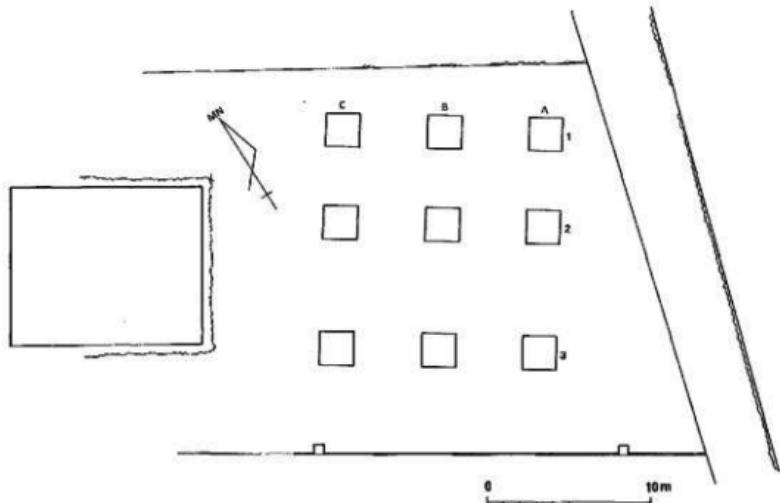
B列の3試掘場の掘り下げを続けた。これらの試掘場の搅乱された層から、縄文時代の土器片・弥生土器の破片と考えられる土器などが見つかっている。9日の午前中にC-1試掘場の北壁に、標高64.5mのレベルを移動させた。午後は調査の終わった試掘場から、順次埋め戻しにかかった。10日は朝から雨で、作業開始はやや遅れたが、雨もやみ、残りの試掘場の埋め戻しにかかった。午後、全ての埋め戻しを完了した。

調査では、現地表面下約2mの明黄褐色の地山まで掘り下げたが、遺構や遺物包含層は確認できなかった。このような状況は、当該の畠地全面に及んでいるものと判断された。このため、何らかの遺構、あるいは遺物包含層については、消滅したものと判断して調査を終了した。

2 土 層

土層の状況は、軽量で微小な粒子となる淡色黒ボク土壤の耕作土とその下の搅乱層があり、第3層としてブロック状に固まつた褐色土層が平均して70cmほど続く。この層は乾燥すると縦方向にヒビ割れする層で、微小な風化礫を含みたいそう固い。第4層には粘質の黒色土層があり、15cmから20cmの厚さがある。4層の上部は茶褐色をしており、下部になるほど黒色の度合いが強くなる。その下は明黄褐色で粘質の地山となっている。4層までと地山の上面までには、ほとんど礫を含んでいない。

以上の土層の状況は、町内の丘陵部に位置する遺跡の土層にはほぼ共通している。特に本遺跡



第4図 調査区域図

に近い、原口A遺跡の土層も同様である。本遺跡の土層の1・2層の擾乱土層の状況を、隣接する国見町の百花台遺跡の土層の状況から推測すると、表土の下に軟質の黄褐色火山灰土層があり、その下にキメの細かい黒色火山灰土層があり、統いて本遺跡の第3層として「ロック状に固まつた褐色土層がくる。本遺跡第2層中に軟らかな黄褐色土や黒色土が混在していた場所もあり、本米の土層は百花台遺跡の土層の状況と同じであったろうことを示している。

今回の調査地点は、牛蒡などの栽培に伴って、かなりの深さまで掘り返されている状況が確認され、地山である明黄褐色の粘質土層まで掘り下げたが、第3層・第4層の擾乱されていない層からの遺物の出土は認められなかった。

3 遺 物

今回の調査での出土遺物はごくわずかであったが、今回調査した近辺に確実な遺構をともなった遺跡、あるいは遺物包含層が存在している可能性が考えられる。

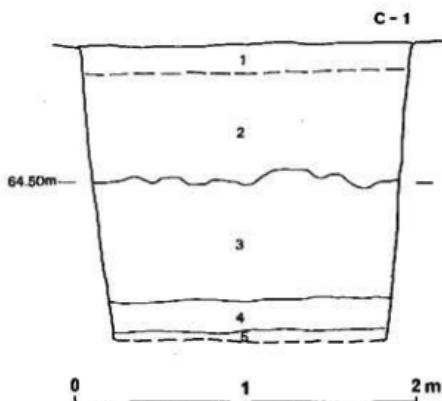
土器 (第6図1~3 図版3)

1はC-1試掘場の耕作土層から出土した押型文土器である。いわゆる橢円押型文であるが、やや角張っている。9.5cm×4.5cmほどの大きさの破片となっているが、原形と大きさについては不明である。器壁は厚く、最も厚いところで1.5cmほどである。器表には間隔のやや不揃いの押型の痕跡を残しており、内面はミガキかナデで調整されたように観察される部分がある。内外面とも茶褐色を呈しているが、外面はやや濃い茶褐色となっている。断面部分は濃い褐色を呈している。胎土には小さな砂粒を含む。焼成は普通のように思われる。

2はA-2試掘場の耕作土層から出土したもので、縦横5cmほどの大きさの破片である。表面

はナデで調整し、内面はミガキの痕跡のように認められる。外面は赤褐色で、内面は淡い赤褐色を呈する。胎土に小砂粒を含むが、焼成はよい。繩文時代晩期の鉢かとも思われるが、断定はできない。原形と大きさについては不明とせざるを得ない。

3は小破片で4cm×2.5cmほどしかない。A-1試掘場から出土した。外面はミガキで、内面はナデで調整している。外面は淡い茶褐色、内面は淡い灰褐色を呈するが一部に黒褐色の部分もある。胎土に小砂粒を含むが、焼成はよい。時期、器形、大きさのいずれ



第5図 土 層 図

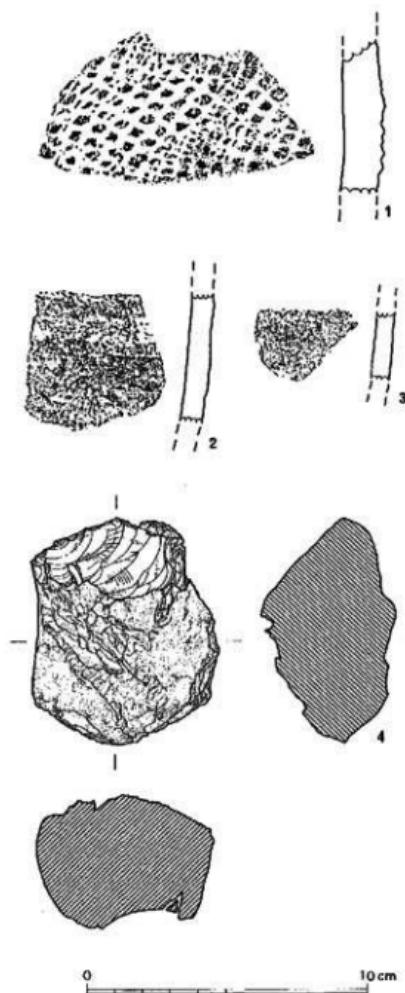
も不明である。

以上のほかに小さな上器片があるが、
器形、時期ともに不明である。

黒曜石原石（第6図4 図版3）

A-2 試掘場の搅乱層から出土したものである。角礫に近い形を呈し、8.1cm × 6.7cm、厚さは4.8cmである。重さは280gある。4回の剥離痕が残っているが、3/4以上は原石の面のままである。剥離面は漆黒色をしている。一部に「ス」やヒビがある。視覚的には腰岳産のもの可能性が高い。

このほか黒曜石の小破片がある。加工の痕跡も一部に認められるが、器種については明らかではない。



第6図 遺物実測図

N ま と め

本遺跡は、広い範囲に土器片や黒曜石の剝片が散布していた状況から、上松高野遺跡として認識されていたものである。しかし、今回の調査では、遺構・遺物包含層などの確認はできなかった。遺物が広範に散布するが、いずれも小破片となっていることから、かなり長いあいだの搅乱が考えられる。表土の耕作のみならず、作物の取り入れの際にかなり深くまで掘り下げられたものと思われる。このような状況は、本遺跡の周辺の遺跡に割合多い。有明町内では、平成元年度に範囲確認調査を実施した上一野遺跡・原口A遺跡がよく似た状況であった。^(注1)隣接する島原市の寺中A遺跡でも同様であった。地表面には土器片等が散布しているため、発掘調査を実施したが、いずれの試掘場でも遺構・遺物包含層は確認されなかった。調査をした多くの畑地に、牛蒡を収穫する際の深く溝状に掘られた痕跡が認められた。これらの遺跡の標高は50mから80mほどで、縄文時代前期から古墳時代に及んでいるが、現在までに高塚式の古墳以外には明瞭な形では残存しない。ほとんどが深耕によって破壊されたものであろう。

低位に位置する遺跡では、遺構・遺物包含層が良好な状況で残っている例が多い。

一野遺跡は標高16m～23mで、昭和30年代から弥生時代の土墳墓・甕棺・箱式石棺や古墳時代の石室などが知られていた。平成3年度の発掘調査で、^(注2)縄文時代から弥生時代、古墳時代の遺物が出土し、石棺・集石遺構・住居址などの遺構が確認されている。

小原下遺跡は標高15m～20mの場所に位置している。おもに、縄文時代後期から晩期の遺物が出土したほか、炉状の遺構が確認されている。^(注3)

妙法塚遺跡は、標高5m～10mほどの場所で、昭和49年には古墳時代の石室が出土した。さらに、昭和50年には弥生時代の甕棺が出土している。周辺には生活址の存在も推測されている。^(注4)

松尾遺跡は標高13m～14mの場所にある。この遺跡は、昭和53年に発掘調査が行われ、若干の縄文時代の土器・石器が出土した。しかし、出土した遺物の90%以上は、^(注5)8世紀代を中心とした遺物である。遺構としては、柱穴や土壙などの生活のあとを示すものが確認されている。

押型文土器を出土する縄文時代早期の高地での生活から、時代とともに下位丘陵に移行する傾向が認められるようである。そして、弥生時代以降は低地に生活の基盤を置き、高塚式の古墳が丘陵上に築かれる傾向にあることが指摘できよう。

今回の調査は、関係された各位の御協力と御助力により、無事に終了することができた。最後になりましたが、篠くお礼を申し上げます。

- 註1 『上一野・原口A遺跡』 有明町文化財調査報告書第8集 有明町教育委員会 1990年
- 2 『一野遺跡』 有明町文化財調査報告書第11集 有明町教育委員会 1992年
- 3 『小原下遺跡』 長崎県文化財調査報告書第67集 長崎県教育委員会 1984年
- 4 『妙法塚遺跡』 長崎県文化財調査報告書第45集 長崎県教育委員会 1979年
- 5 『松尾遺跡』 長崎県文化財調査報告書第91集 長崎県教育委員会 1988年

図 版

図版 1



遺跡近景と調査風景

図版 2



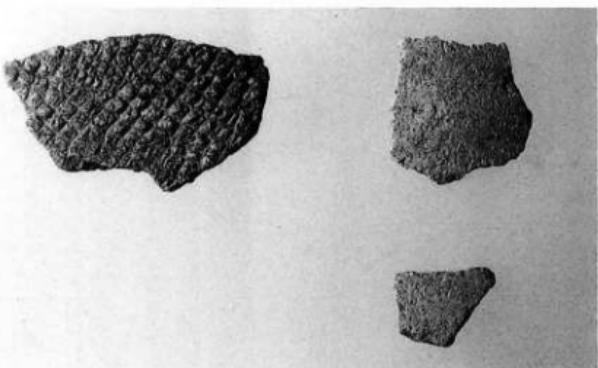
C-1 試掘場



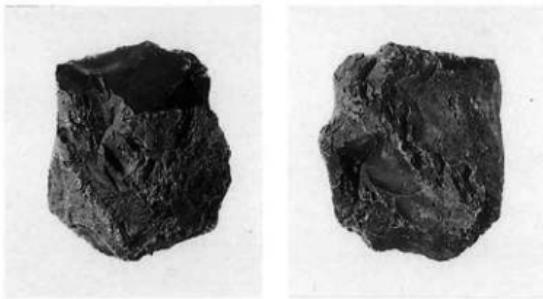
土層の状況

A-3 試掘場

圖版 3



(表)

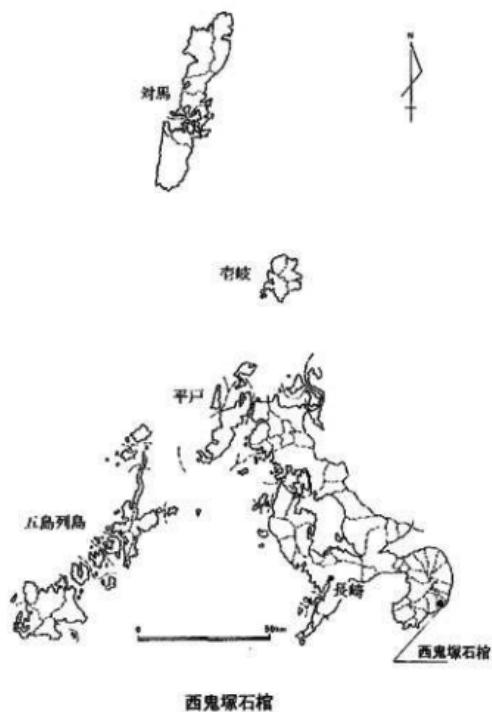


出土遺物

(裏)

III 西鬼塚石棺

— 南高来郡有家町所在 —



例　　言

1. 本書は、平成4年度に実施した、長崎県南高来郡有家町蒲河名1820番地に所在する西鬼塚石棺群の緊急発掘調査報告書である。
2. 調査は、平成4年5月6日から同月8日までの3日間実施した。
3. 有家町教育委員会が調査主体となり、長崎県教育庁文化課が調査を担当した。
4. 調査関係者は下記のとおりである。

有家町教育委員会　長門久壽　教育長
三好勝利　社会教育係長
長崎県教育庁文化課　村川逸朗　文化財保護主事
下田章吾　文化財調査員

5. 図版作製を、村川、下田で行い、本報告の執筆および編集は村川による。

本文目次

I 調査に至る経緯	51
II 遺跡の立地と歴史的環境	51
III 調査	
1. 調査概要	53
2. 土層	53
3. 造構	54
4. 遺物	54
IV まとめ	54

挿図目次

第1図 調査区域図	50
第2図 有家町内の遺跡	51
第3図 島原半島の旧石器時代及び縄文時代の主な遺跡	52
第4図 土層図 (1/20)	53
第5図 1号石棺 (1/20)	55

図版目次

図版1 調査風景・1号石棺蓋石	59
図版2 1号石棺(南から撮影)	60
図版3 1号石棺(掘り方)・石斧出土状況	61



第1図. 調査区域図

I 調査に至る経緯

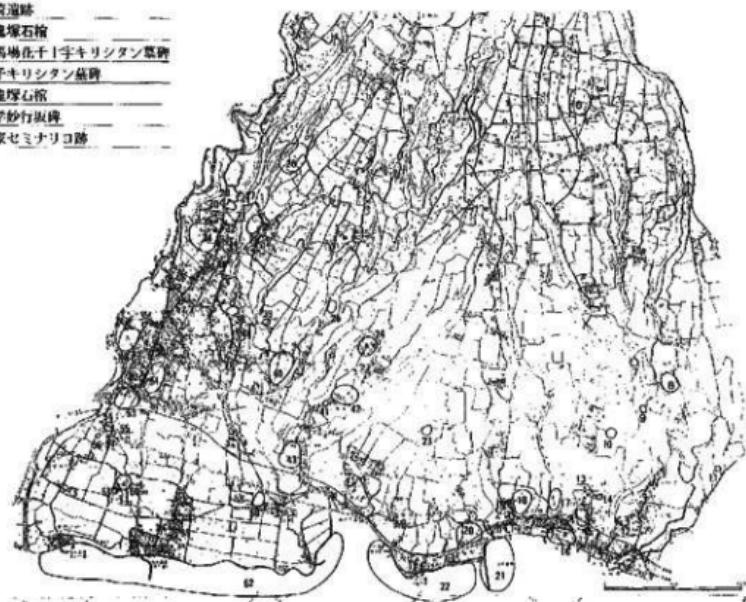
畑地転作のための深耕工事が計画されたが、この畑地には昭和49年3月に発見され、古田正隆氏によって調査された箱式石棺が埋置されたままになっており、また、その外にも石棺の存在が予想されたため、箱式石棺の基數確認と、埋置されたままの現存石棺の記録および包含層の残存状況を確認する必要があることから試掘調査を実施した。

II 遺跡の立地と歴史的環境

本遺跡がある有家町は、島原半島の中心にある雲仙岳東南麓の火山性扇状地上に立地している。標高は60~66mを囲り、遺跡地の西側を、蒲河川の支流が開析谷を形成している。

周辺の遺跡としては、第2図41の弥生~古墳時代の下鬼塚石棺、21の縄文時代晚期の縦器を多く出土した堂崎遺跡等がある。中須川には54の中・近世の有家セミナリヨ跡があり、桜馬場

- 21. 堂崎遺跡
- 24. 西鬼塚石棺
- 30. 桜馬場丘下千字キリシタン墓碑
- 31. 類子キリシタン墓碑
- 41. 下鬼塚石棺
- 44. 法字妙行坂碑
- 54. 有家セミナリヨ跡



第2図. 有家町内の遺跡

には30の花十字キリシタン墓碑、31の類子キリシタン墓碑等があり、キリシタン時代の伝統も併せもっている。44の法学妙行板碑等の中世の板碑や、中・近世の石塔群等もある。

島原半島全体で、西鬼塚石棺と並行する時代と考えられる遺跡としては、7の原山支石墓群や、4の山の寺梶木遺跡があるが、いずれも200mから300mの高い標高域にある。



第3図、島原半島の旧石器時代及び縄文時代の主な遺跡

III 調査

1 調査概要

調査対象地の中で、試錐棒に反応があった地点に $2\text{m} \times 2\text{m}$ の試掘場を設定して調査を実施した。また、石棺の有無を確認するため、試錐棒を密に入れ探索したが、反応がなく1号石棺以外の石棺は存在しないものと推測された。

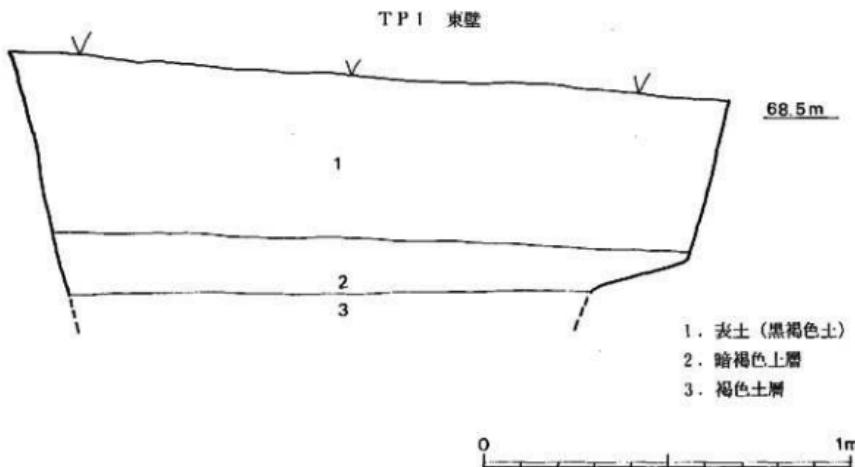
T.P (試掘場) 1 の第2層（暗褐色土層）から磨製石斧1点と、1号石棺北西側の小児の人頭大及び一辺が50cm程の石の周囲から、縄文時代晚期の甕と黒色磨研上器（浅鉢）の小片が出土した。それ以外には遺物・遺構の検出はできなかった。

なお、今回の調査を実施した畑地の南側に接している早田氏の畑地で石棺の小口部分を確認した。

2 土層

T.P 1 の上層堆積状況を示すと。

- 第1層 表土層（黒褐色土層）
- 第2層 暗褐色土層（磨製石斧出土）
- 第3層 褐色土層



第4図. 土層図 (1/20)

3 遺構

1号箱式石棺は、副葬された遺物がなかったので断定はできないが、石棺の周辺から縄文時代晩期の土器が出土したことから、当該期に属する可能性もある。

(1号箱式石棺の法量)

長さ：72cm（最短）～80cm（最长）

幅：41cm（最少幅）～44cm（最大幅）

深さ：37cm（最少深）～43cm（最大深）

4 遺物

磨製石斧1点。縄文時代晩期の甕と黒色磨研土器（浅鉢）の小片が数点。

IV まとめ

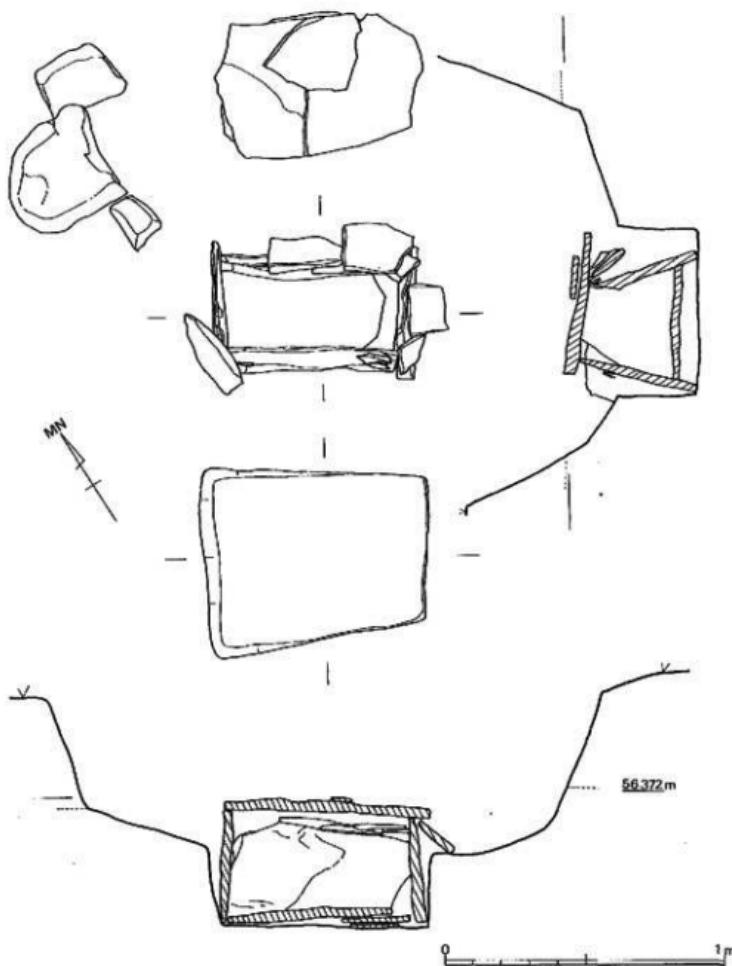
今回の調査地点では1号石棺以外の石棺は存在しないものと思われる。また、その他の遺構も検出できなかった。石棺墓の分布範囲は、南側に隣接する早田氏所有の畠地へ広がるものと推測される。

1号石棺については、法量や、石棺の床に棺床材を敷くという構造、石棺の北西側で小児の人頭大及び一辺が50cm程の石があり、その石の周囲から縄文時代晩期の甕と黒色磨研土器（浅鉢）の小片が出土したこと等より、縄文時代晩期の支石墓の可能性もある。

註1 吉田正隆氏により弥生時代の石棺といわれていた。吉田正隆・吉田安弘『有家町における文化財の分布調査』—資料より見た後、韓交流史に対する提言—有家町の文化財報告第1集 有家町教育委員会 昭和55年3月31日

〈参考文献〉

『土地分類基本調査』島原・荒尾 5万分の1 国土調査 長崎県 1976



第5圖. 1号石棺 (1/20)

図 版

図版. 1



調査風景・1 石棺蓋石（一度あけられたものが再びかぶせられていた。）

図版. 2



一號石棺
(南から撮影)



図版. 3



一號石棺 (掘り方)



石斧出土状況

平成 3 年度埋蔵文化財発掘調査一覧

N

V 平成3年度埋蔵文化財発掘調査一覧

学術調査

番号	道路名	所在地	調査区分	調査主体	面積	測量内容
1	平戸和田橋	平戸市大久(原) 96.2486.2474. 2.958	学術調査	平戸市教育委員会 (4.38を含む)(1.)	91.1.9 91.12.22	出土物地図、海岸石垣、中間船橋位置。
2	宮下貝塚	所沢市御旗江町 北尾尾宮ノ下	重要遺跡 施設構造調査	長崎県教育委員会	91.5.30 91.6.5	縄文時代の包含層。
3	大門貝塚	北高木郷高盛町 里名145-112小 路125.6ほか。	重要遺跡 施設構造調査	長崎県教育委員会	91.6.3 91.6.15	縄文時代から中世の包含層。
4	延岡八道跡	西側片瀬野佐町 路125.6ほか。	重要遺跡 施設構造調査	長崎県教育委員会 長崎県教育委員会	57㎡ 91.6.21 91.11.18 91.12.3	縄文時代～中世の包含層 縄文時代中期～帆船の遺物 中・近世遺跡
5	飯糸日道跡	西側片瀬野佐町 路125.6ほか。	重要遺跡 施設構造調査	長崎県教育委員会	68㎡ 91.6.21 91.11.18 91.12.3	縄文時代～中世の包含層 縄文時代中期～帆船の遺物 中・近世遺跡
6	延岡に通跡	内坂片瀬野佐町 路125.6ほか。	重要遺跡 施設構造調査	長崎県教育委員会	93㎡	
7	木波越津沖社 弓張神社	1.木波越津町 木波タカノロ246	学術調査	姪町教育委員会	91.6.29 91.7.13	出土海産物 分析実験。
8	真鳥遺跡	下原奈良津島町大字 大山字マツミ35-1-部 1イ-第2:17	重要遺跡 施設構造調査	長崎県教育委員会 長崎県教育委員会	91.8.19 91.8.29 91.10.16 91.10.25	古墳時代の墳丘(箱大石室等) 中世の墳丘等 近世の堤防。
9	若林園分界跡	宅地整理事業用分地 本村行幸子中野13354 か。	施設構造調査	若林町教育委員会 若林町教育委員会	141㎡ 91.10.7～ 91.10.20～ 91.11.12	基盤をもつ建物跡。
10	中尾上登美塚	東側片瀬曳住見町 中尾塚	運動場構造 調査	若林町教育委員会 若林町教育委員会	91.10.14 91.11.12	160m以上の近世塚。
11	西史塚	平戸市川内町1114	道側施設調査	平戸市教育委員会	91.11.12 91.11.22	礫石1列 中間船橋位置 紀元前船橋。
12	辺戸ノ谷塚跡	東側片瀬曳住見町 辺戸16612	道側施設調査	若林町教育委員会 若林町教育委員会	91.11.14 91.11.25	17世紀後半の塚跡。

番号	道路名	所在地	路名区分	路名主体	期 間	面 積	調査内容
13	桜台通路	松浦市今福町東免 2261-2か	鶴見警察署鶴見 鶴見警察署鶴見	鶴見市教育委員会	Y1. 11. 15 91. 12. 26	145㎡	石面道路 電磁録 背合小木 (13年記録未手～14年記録手～17年記録半)
14	黒田新道跡	北松浦郡田平町 里免の骨地1	鶴見警察署鶴見 鶴見警察署鶴見	田平町教育委員会	Y2. 3. 9 92. 3. 18	106㎡	碑文・松金門代の名 後金門代の木田開発で削平化。

開発に伴う調査

番号	道路名	所在地	原 因	調査主体	調 間	面 積	調査内容
1	万才町 鶴見新幹線跡	長崎市万才町	豪雨排水所建設	長崎市教育委員会	Y1. 4. 11 91. 10. 12	1,773㎡	砾石、石面 有入網路筋、チエスル、從事者等など。
2	油の田路2番地	北松浦郡小值賀町 前方櫛瀬の田	松浦住民新幹線	小值賀町教育委員会	Y1. 5. 9 91. 5. 11	41㎡	歩生式土器、瓦芯器、土器等、瓦芯、瓦等 瓦砾フレイク
3	三洗川出口通路	南高来郡西町金山名 1415-4号地	改良工事	長崎県教育委員会	①Y1. 5. 13～ ②Y1. 10. 1～ 91. 1. 22	2,660㎡	鐵社遺跡、旧石器 碑文時代早～中期の遺物。
4	四反田通路 扇辺通路	佐世保市愛宕町	土地改良	佐世保市教育委員会	Y1. 5. 13 91. 5. 17	20㎡	中生遺物再出露。
5	山田通路	南高来郡西町 栗林名字城	公報整備	西禹町教育委員会	Y1. 5. 20 91. 7. 15	204㎡	武器、牛糞施肥器、鍬頭 糞前不調査。
6	生見辻子通路	佐世保市鶴見町559	土地改良	佐世保市教育委員会	Y1. 5. 21 91. 5. 24	4㎡	遺物散布地。
7	坂茂天神宮下 通路	佐世保市鶴見町559	土地改良	佐世保市教育委員会	Y1. 5. 21 91. 5. 24	4㎡	遺物散布地。
8	坂茂天神宮下 通路	佐世保市鶴見町351-1	七堵改良	佐世保市教育委員会	Y1. 5. 21 91. 5. 24	4㎡	遺物散布地。
9	坂茂天神宮通路	佐世保市鶴見町89-15	土地改良	佐世保市教育委員会	Y1. 5. 21 91. 5. 24	4㎡	遺物散布地。

番号	造営名	所在地	面積	高さ・主体	周囲	面積	調査内容
10	伏見城敷地跡	伏見区伏見町人村公園内	公園整備	大村市教育委員会	91. 5. 21 91. 5. 24	60d ²	緑保の基盤、瓦。
11	小堀C道路	伏見区小川町	市道整備工事	伏見市教育委員会	91. 5. 21 91. 7. 30	4,620d ²	土塁、礎石遺構、赤生瓦土器、十面鏡、青磁、白磁。
12	上下瀬瀬跡	北佐久間小池町 瀬瀬字上下瀬	福宮神社跡	小坂皮製皮革委員会	91. 5. 22 91. 6. 12	65d ²	瓦器、土師器、貿易陶器點、瓦器、陶器石フライタ。
13	今伊達跡	大村市今伊達町226-4	T字型段	大村市教育委員会	91. 5. 27 91. 5. 28	280d ²	濃紺な「馬鹿行者顔か」放矢。
14	興善門遺跡	長崎市興善町4-17	ビル建設	長崎市教育委員会	91. 6. 11		立会調査 遺跡・遺物など。
15	野前城跡	北佐久間小池町 野前字西平	福宮神社跡	小坂皮製皮革委員会	91. 6. 14 91. 8. 5	372d ²	鐵文式十面鏡、青生瓦、赤生瓦、土師器、近世陶器等など。
16	刈萱城跡	松浦市尾鹿町西鷹先	中地区庁舎	松浦市教育委員会	91. 6. 24 91. 7. 17	72.5d ²	龍石遺構、安山岩剝片、黒斑石剝片、柴竹席。
17	鳥居子分院 西方造跡	佐世保市上平戸町	リゾート	佐世保市教育委員会	91. 7. 6 91. 7. 8	9d ²	造地低地地。
18	諏早長篠御所跡	諏早市立石町1003 道跡	改築工事	長崎県教育委員会	91. 7. 17 91. 7. 18	10d ²	摸拟。青生瓦十面鏡、石器、中近世陶器。
19	笠崎城跡	福江市奥須町2019	定期実験	福江市教育委員会	91. 7. 17 91. 8. 1	316d ²	風文時代の包含層。
20	坂上遺跡	南高木郡吉野町平江各 坂上	監修事業	吉野町教育委員会	91. 7. 16 91. 10. 11	562d ²	濃紺な「馬文十面鏡」。
21	興善門遺跡	長崎市興善町6	ビル建設	長崎市教育委員会	91. 7. 20 91. 11. 30	132d ²	近世陶器器片、ガラス製品。
22	治チウ原遺跡	平戸市大久保町子竹子 ウ原	造設工事	平戸市教育委員会	91. 7. 23 91. 7. 24	20d ²	遺跡な「馬縄文時代～近代の製鐵器片（少他）」。

番号	遺跡名	所在地	原団	調査主体	期間	面積	調査内容
23	上人里遺跡	平戸市岩の上町	平戸大樹工事	長崎県教育委員会	①91.7~22 ②91.8~9 ③91.8~26~ 91.10.18	421.5a ²	近世以前の海が道等一条 ナシイ形石橋、スクーナーべ。
24	新小辻遺跡	平戸市豊島町字宮の上 1738	新幸工事	平戸市教育委員会	91.7.26 91.11.20	297.4a ²	立合遺跡、遺物な。
25	百貫石遺跡	南高米原町字家町三又	区画整理事業	有家町教育委員会	91.7.29 91.8.2	32a ²	
26	野邊跡	南高米原町字家町大三東 甲712	浄化池建設	有家町教育委員会	91.8.5 91.9.18	974a ²	土塗(窓穴)、住居址(歩き), 流式石室(古墳), 組文土器、介生土器、須西器、土削器、瓦質土器,
27	源中遺跡	島原市中原町	住宅建設	長崎県教育委員会	91.8.5 91.8.8	65a ²	縄文時代地貝塚の包含層, 土師器、須西器。
28	上下西遺跡	北原鹿部小林賀町伊藤郷 字上下西	井名町教育委員会	小林賀町教育委員会	91.8.6 91.11.4	700a ²	本調査、排水渠、片戸水、 貯物池、井戸跡、瓦器、馬頭石フジイ。
29	形見遺跡	佐々木村新郷町西野影 蛇	農村低地	瑞穂町文化財保護協会	91.8.26 91.8.31	40a ²	
30	鶴丸遺跡	南高木原町見月町 神代名字小路内10-1	小林工事	日見町教育委員会	91.8.27 91.8.28	76.2a ²	出土なし。
31	田崎遺跡	平戸市津吉町 1163-1	湯森工事	平戸市教育委員会	91.9.1 91.11.30	361.5a ²	立合遺跡 出土なし。
32	新田遺跡	佐世保市新田町	土堀改修	佐世保市教育委員会	91.9.4 91.9.5	15a ²	漁物散布地。
33	万才町遺跡	長崎市万才町8-22	ビン建設	長崎市教育委員会	91.9.10 91.11.23	300a ²	近世陶磁器、ガラス瓶、石器。
34	中山遺跡	諫早市福田町	区画整備	諫早市教育委員会	91.9.10 91.9.20		実測約39.6a ² 。
35	相中遺跡	島原市下吉町	工場建設	島原市文化財保護協会	91.9.20 91.9.19	1.38a ²	中世瓦器群。 瓦文時(8世紀)のカメ。

番号	道路名	所在地	原因	調査主体	期間	面積	調査内容
35	中野ノ辻通路	北松浦郡平野町 松田免1674	鳥糞堆積	田平町教育委員会	91. 9. 24 91. 11. 9	500m ²	石棺11基。ガラス瓶、管玉。
37	上久保通路	佐世保市竹迎町	宅地造成	佐世保市教育委員会	91. 9. 26	5m ²	遺物散在地。
38	上田井通路	北高来郡高来町 佳名字上田井家222	区画整備	高来町教育委員会	91. 9. 27 91. 10. 9	550m ²	柱穴。土壙築(柱坑)。
39	平松通路	諫早市本羽町	開墾整備	諫早市教育委員会	91. 10. 5 91. 12. 3	95m ²	樹木(?)、菅席、褐輪瓦、石块、瓦砾等。
40	中山通路	諫早市福岡町	区画整備	諫早市教育委員会	91. 10. 11 91. 11. 29	700m ²	木製柱、 柱頭瓦、瓦片瓦、石器破片、石器残塊、石剣頭部、外石土 等。
41	山田通路	南高来郡香深町森林字 城	公園整備	香深町教育委員会	91. 10. 23 91. 12. 22	700m ²	木製柱、 柱頭瓦、
42	中江通路	北高来郡松代町 大字江名中江	開墾整備	高来町教育委員会	①91. 9. 28~ ②92. 1. 6~ 92. 1. 8	1000m ²	花文石石棺19基 房主時代2条 瓦片瓦等。
43	折尾通路	北松浦郡小林町 民謡堺折尾	県営森林整備	小笠原町教育委員会	91. 10. 29 91. 12. 21	184m ²	遺物なし。 御文時代の包含層確認。 瓦器、瓦片、陶器片等。
44	櫛中通路	島原市下宮町甲	市道新船工事	島原市文化振興委員会	91. 10. 29 92. 11. 1	112m ²	御文時代地廻りの包含層。 土壙築、瓦片瓦等。
45	櫛ノ木通路	長崎市竹生町 櫛免免1669-1	河川改修	松浦市教育委員会	91. 10. 31 91. 11. 15	52m ²	柱穴。 馬鹿石軸三棱尖頭器 石器、スクノーベー。
46	人金寺通路	佐世保市平塚2丁目	本垂垂突	佐世保市教育委員会	91. 11. 7	5m ²	発生・中世遺物浮遊層。
47	曾根通路	南高来郡新魚目町 曾根町森子石崎高崎山	公園整備	新魚目町教育委員会	91. 11. 11 91. 11. 16	60m ²	馬鹿石軸三棱尖頭器 石器、スクノーベー。
48	小野通路	諫早市宋方町	迷歩道設置	諫早市教育委員会	91. 11. 28 91. 11. 30	/	瓦器。系引木構造。

調査内観							
番号	道路名	所在地	原因	測定工作	幅	高	面積
49	白崎道跡	西郷井郡西郷町 門崎・山武寺・赤石	町等事業地	西郷町教育委員会	91. 12. 2 91. 12. 6	60'ft	旧石器時代の瓦合跡、 細文様時代の鬼瓦合跡、 粗文様時代の鬼瓦合跡、 亂瓦土器等。
50	平山八幡跡	長崎市宇佐町	二小姓塗	長崎市教育委員会	91. 12. 10 91. 1. 18	60'ft	近世塗跡 寛永五年記載碑
51	小野道跡	深平町末ノ町	選歩道跡	諫早市教育委員会	91. 12. 18 91. 2. 5	170'ft	本選歩道、貢駆、枕引。 細文式土器、弥生式土器、石器、竹竹。
52	宮ノ下り道跡	松浦町志佐町西611 一	排水工事	松浦市教育委員会	91. 12. 21 91. 3. 30	170'ft	工事立会 粗文式土器、弥生式土器、粗文石器石輪、 須通器、十市器。
53	橋中道跡	島原市下高町	市道排水工事	島原市文化財保護協会	91. 12. 23 91. 12. 27	328'ft	織文時代後期の瓦合跡 細文式土器、弥生式土器、 土器。
54	杉尾坂跡	西原木野新里町	防火工事	壱原町文化財保護協会	92. 1. 8 92. 1. 10	50'ft	立合窓。 積入断面器。
55	津吉道跡	平戸市波豆町 佐賀町1147-3	新築工事	平戸市教育委員会	92. 1. 16 92. 2. 23	198.9'ft	遺物、遺構なし。
56	久島古墳群	大村市牧島・丁日久島 崎	公園整備	大村市教育委員会	92. 1. 20 92. 2. 17	250'ft	古墳群を確認。 上廻・斜面。
57	内原山道跡	佐世保市中郷町	土地改変	佐世保市教育委員会	92. 1. 27 92. 1. 28	5'ft	遺物なし。
58	原の辻道跡	市杵島郡大村町深江 筋地等字八反	整備事業	芦辺町教育委員会	92. 2. 17 92. 2. 29	156'ft	杭跡、旧石器(台形柱)、 弥生時代後期・中期、鬼瓦、石器、木造 十脚部、中世臼器。
59	佐世保城	佐世保市吉田町	防火工事	佐世保市教育委員会	92. 2. 24 92. 2. 29	100'ft	中世山城(築城のみ)。
60	萩原公園	佐世保市秋葉町	公園造営	佐世保市教育委員会	92. 2. 27 92. 2. 29	20'ft	石橋2基(古墳時代)
61	新の辻道跡	佐世保市山田町石田西林 尾川東隣	整備事業	石山町教育委員会	92. 3. 2 92. 3. 13	200'ft	毛穴。弥生時代中~後期の土器。石器。 土器。

番号	遺跡名	所在地	原 因	調査主体	期 期	面 積	調査 内 容
62	根野下塚跡	平戸市根野子町815	建設工事	平戸市教育委員会	92. 3. 6 92. 3. 12	30m ²	帶状石壙 2 基、土壙塚 3 基、灰坑 1 件、 幼児 2 体)
63	原の辻遺跡	平戸市芦田町原江 鶴崎地字原江1241	災害化旧工事	芦田町教育委員会	92. 3. 16 92. 3. 31	28m ²	開 3 条 学生時代中～後期の土器。

長崎県埋蔵文化財調査集報 XVI

平成5年3月31日

発行 長崎県教育委員会
長崎市江戸町2-13

印刷 (株)三省堂印刷所